

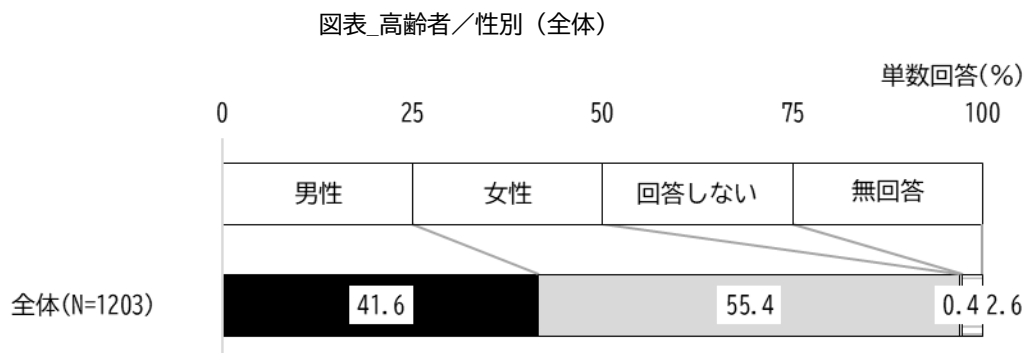
### 第3章 高齢者（65歳以上）調査結果

【調査名】 高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

#### 1 あなた（ご本人）についておたずねします

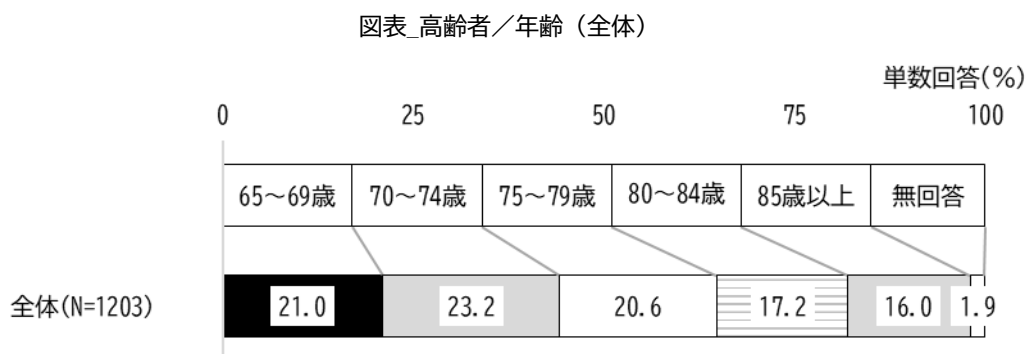
問1 性別を教えてください。（1つに○）

- 性別は、「男性（41.6%）」、「女性（55.4%）」、「回答しない（0.4%）」である。



問2 年齢を教えてください。（1つに○）（令和4年10月1日現在）

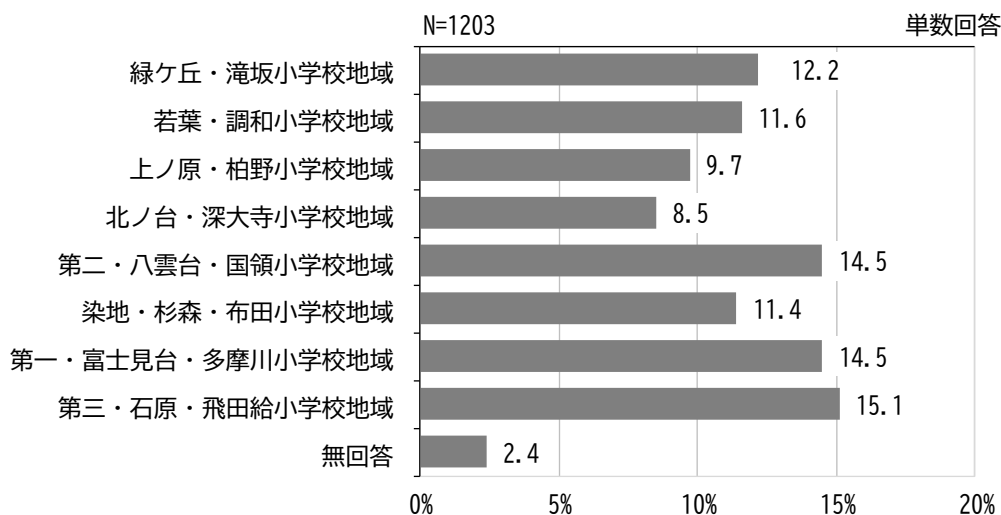
- 年齢は、「70～74歳（23.2%）」が最も多く、「65～69歳（21.0%）」が続いている。



問3 お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域(福祉圏域)は、「第三・石原・飛田給小学校地域(15.1%)」が最も多く、「第二・八雲台・国領小学校地域(14.5%)」と「第一・富士見台・多摩川小学校地域(14.5%)」が続いている。

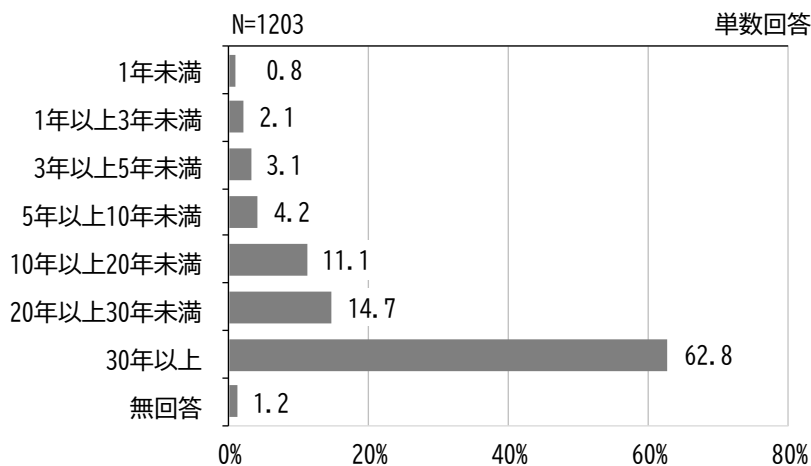
図表\_高齢者/居住地域(全体)



問4 市内での居住年数(市外への転居期間を除く通算年数)を教えてください。(1つに○)

- 居住年数は、「30年以上(62.8%)」が最も多く、「20年以上30年未満(14.7%)」、「10年以上20年未満(11.1%)」が続いている。また、「1年未満」は0.8%である。

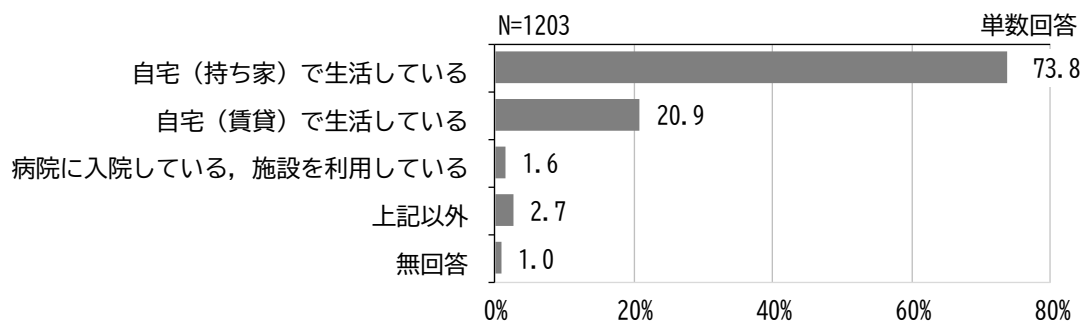
図表\_高齢者/居住年数(全体)



問5 住居形態を教えてください。(1つに○)

- 住居形態は、「自宅（持ち家）で生活している（73.8%）」が最も多く、「自宅（賃貸）で生活している（20.9%）」が続いている。

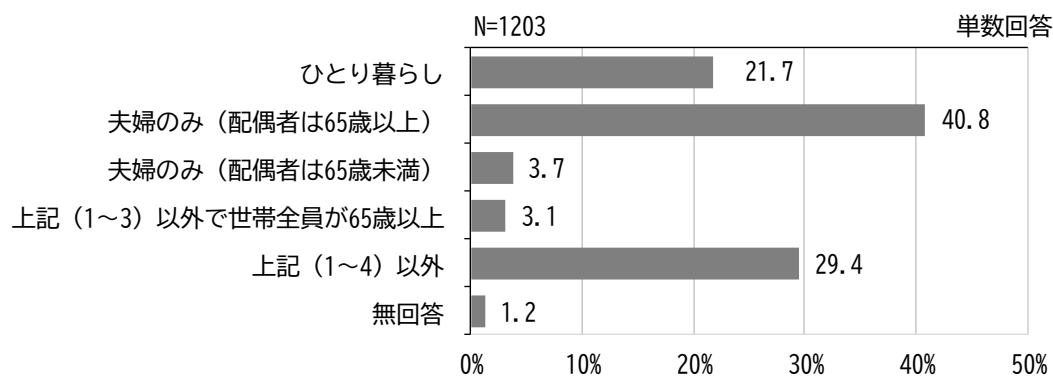
図表\_高齢者/住居形態（全体）



問6 同居している家族構成を教えてください。(1つに○)

- 同居家族は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）（40.8%）」が最も多く、「上記（1～4）以外（29.4%）」、「ひとり暮らし（21.7%）」が続いている。

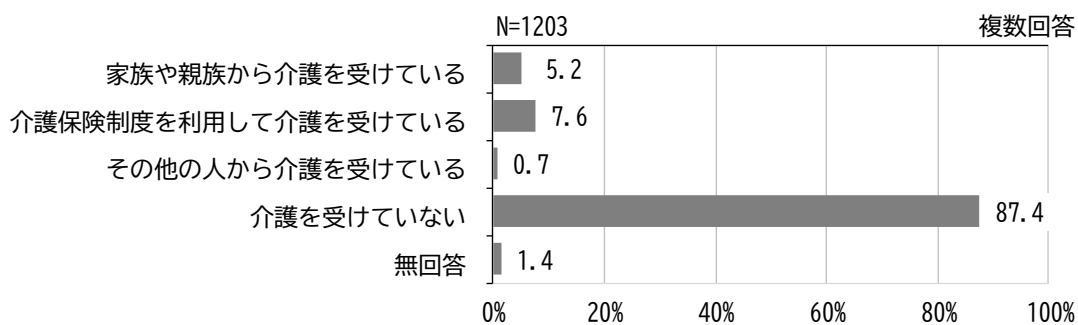
図表\_高齢者/同居家族（全体）



問7 あなたは現在、介護を受けていますか。(いくつでも○)

- 介護の状況は、「介護を受けていない(87.4%)」が最も多く、「介護保険制度を利用して介護を受けている(7.6%)」、「家族や親族から介護を受けている(5.2%)」、「その他の人から介護を受けている(0.7%)」となっている。

図表\_高齢者／介護の状況(全体)

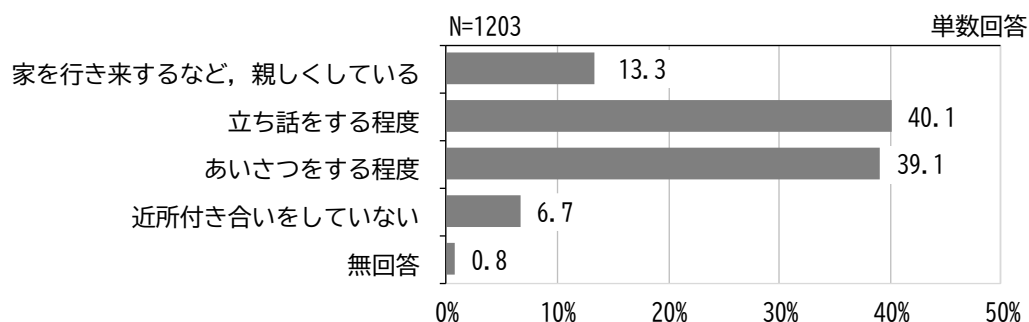


## 2 近所付き合いについておたずねします

問8 近所付き合いは、どの程度していますか。（主なもの1つに○）

- 近所付き合いの状況は、「立ち話をする程度（40.1%）」が最も多く、「あいさつをする程度（39.1%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』割合は53.4%となっている。

図表\_高齢者／近所付き合いの状況（全体）



### 【回答者属性分析】

- 近所付き合いの状況の割合を性別にみると、『親密な近所付き合いをしている』※の割合は、男性が40.5%、女性は63.2%となっている。
  - 家族構成別にみると、『親密な近所付き合いをしている』※の割合は、ひとり暮らし、夫婦のみ、その他とも5割台となっている。
  - 福祉圏域別にみると、『親密な近所付き合いをしている』※の割合は、染地・杉森・布田小学校地域で6割を超える高い数値となっている。
- ※「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」の合計

図表\_高齢者／近所付き合いの状況（性別，家族構成別，福祉圏域別）（％）

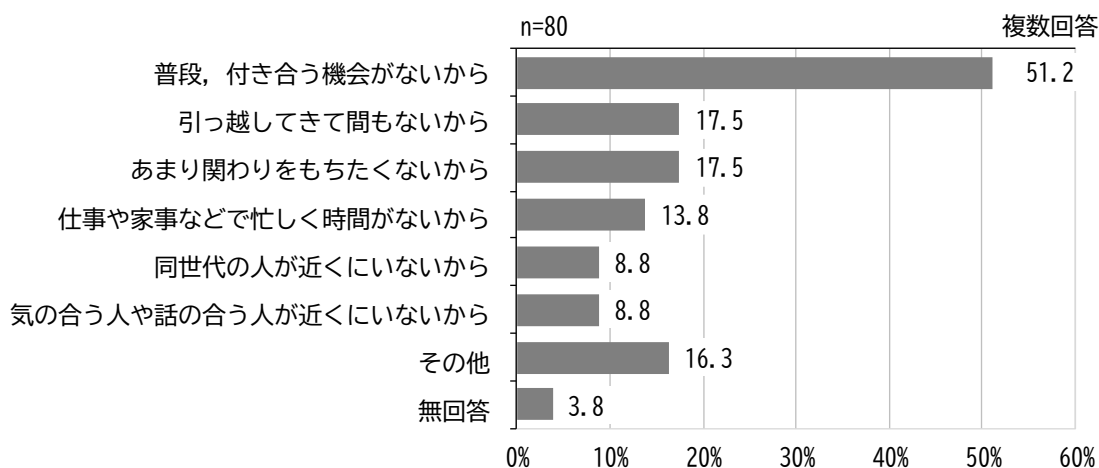
各項目1位に網掛		親家 しを く行 して 来 す る な ど、	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	な い 近 所 付 き 合 い を し て い	無 回 答	を『親 密な 近所 付き 合い 』
全	体 (N=1203)	13.3	40.1	39.1	6.7	0.8	53.4
性 別	男性 (n=501)	7.6	32.9	50.3	8.4	0.8	40.5
	女性 (n=666)	17.9	45.3	30.6	5.3	0.9	63.2
	回答しない (n=5)	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	40.0
家 族 構 成 別	ひとり暮らし (n=261)	13.8	38.7	36.8	10.3	0.4	52.5
	夫婦のみ (n=536)	12.1	40.7	41.8	5.4	0.0	52.8
	その他 (n=391)	14.8	41.2	37.1	6.1	0.8	56.0
福 祉 圏 域 別 (小 学 校 区)	緑ヶ丘・滝坂 (n=147)	13.6	38.1	43.5	4.8	0.0	51.7
	若葉・調和 (n=140)	20.7	34.3	40.0	4.3	0.7	55.0
	上ノ原・柏野 (n=117)	7.7	43.6	36.8	10.3	1.7	51.3
	北ノ台・深大寺 (n=102)	14.7	34.3	42.2	7.8	1.0	49.0
	第二・八雲台・国領 (n=175)	14.9	37.1	40.6	7.4	0.0	52.0
	染地・杉森・布田 (n=137)	16.1	46.0	30.7	6.6	0.7	62.1
	第一・富士見台・多摩川 (n=174)	12.6	40.2	37.4	8.6	1.1	52.8
第三・石原・飛田給 (n=182)	8.8	45.1	41.2	3.8	1.1	53.9	

付問 問 8 で「4 近所付き合いをしていない」と答えた人におたずねします。近所付き合いをしていない理由は何ですか。（いくつでも○）

- 「近所付き合いをしていない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「普段、付き合う機会がないから（51.2%）」が最も多く、「引っ越してきて間もないから（17.5%）」と「あまり関わりをもちたくないから（17.5%）」が続いている。

図表\_高齢者／近所付き合いをしていない理由（全体）

<「近所付き合いをしていない」と回答した人>

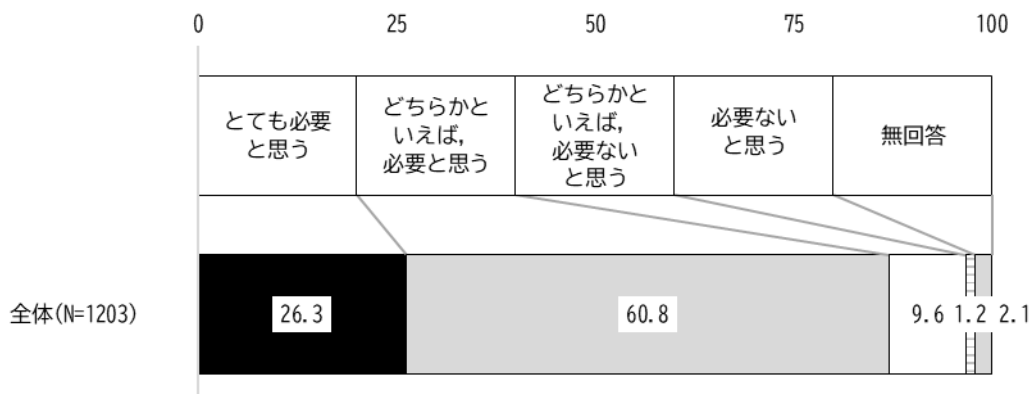


問 9 暮らしの中で近所付き合いは必要と思いますか。（1つに○）

- 近所付き合いの必要性については、「とても必要と思う」と「どちらかといえば、必要と思う」を合わせた『必要である』が87.1%、「どちらかといえば、必要ないと思う」と「必要ないと思う」を合わせた『必要でない』が10.8%である。

図表\_高齢者／近所付き合いの必要性（全体）

単数回答(%)



### 3 市民同士の支え合い，地域活動についておたずねします

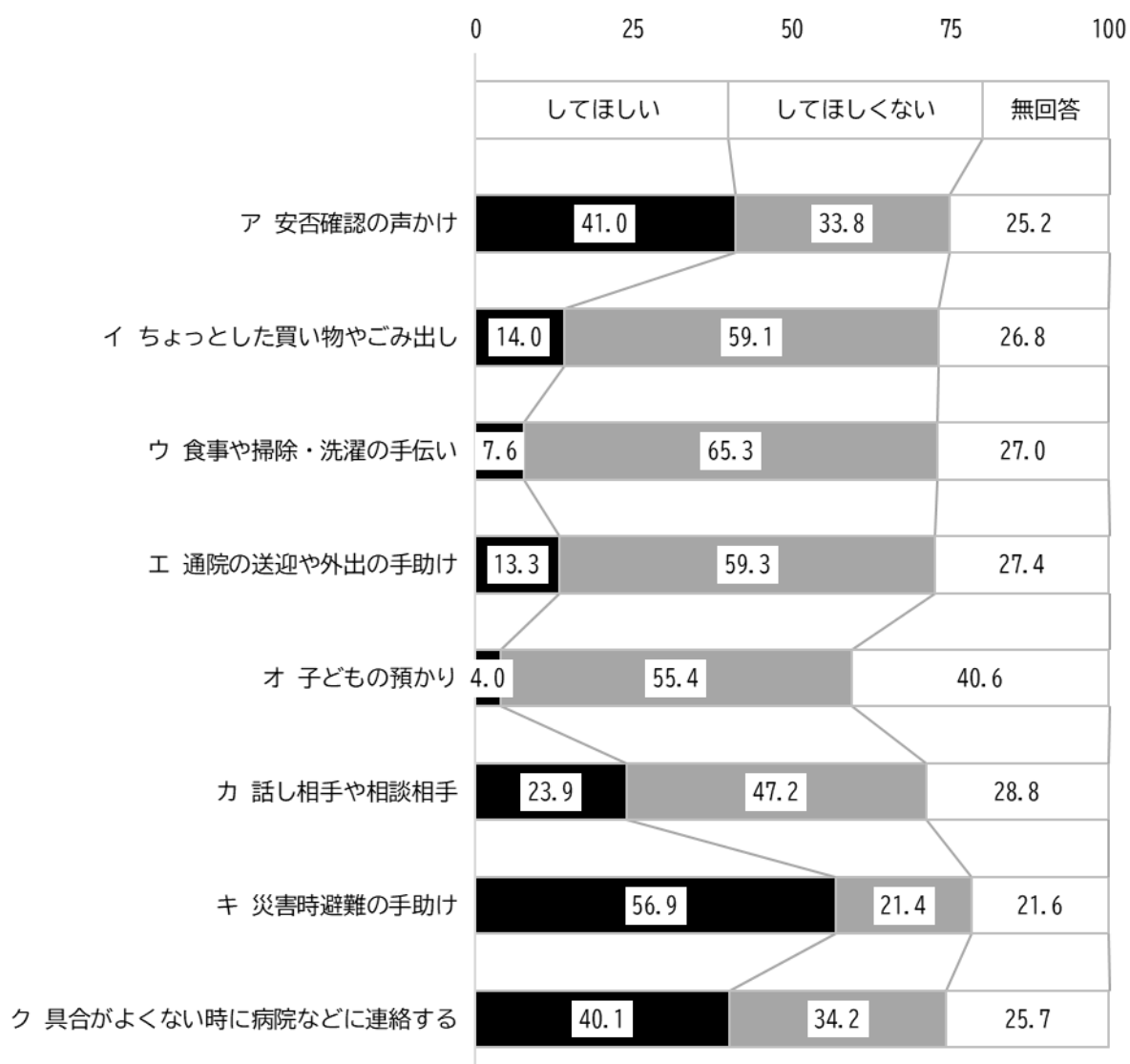
問 10 あなたは次の事柄について，家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また，まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。①手助けしてほしいか，②手助けできるかについて，それぞれ1つに○を付けてください。

#### ① 手助けしてほしいこと

○ 手助けを「してほしい」の割合は，『災害時避難の手助け（56.9%）』が最も多く，『安否確認の声かけ（41.0%）』，『具合がよくない時に病院などに連絡する（40.1%）』が続いている。

図表\_高齢者／手助けしてほしいこと（全体）

N=1203 設問毎の単数回答（%）



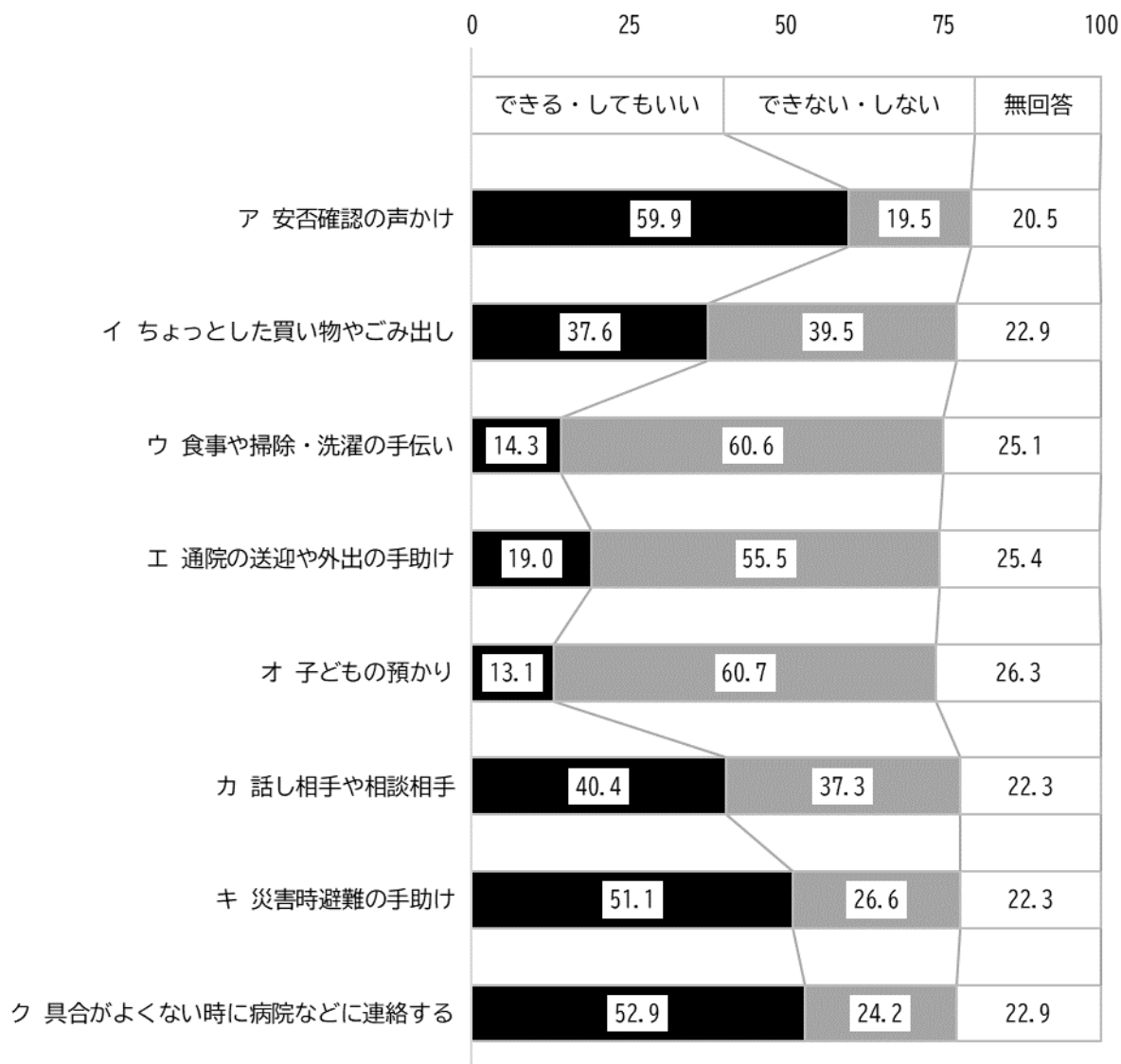


② 手助けできること

- 手助けを「できる・してもいい」の割合は、『安否確認の声かけ（59.9%）』が最も多く、『具合がよくない時に病院などに連絡する（52.9%）』，『災害時避難の手助け（51.1%）』が続いている。

図表\_高齢者／手助けできること（全体）

N=1203 設問毎の単数回答（%）

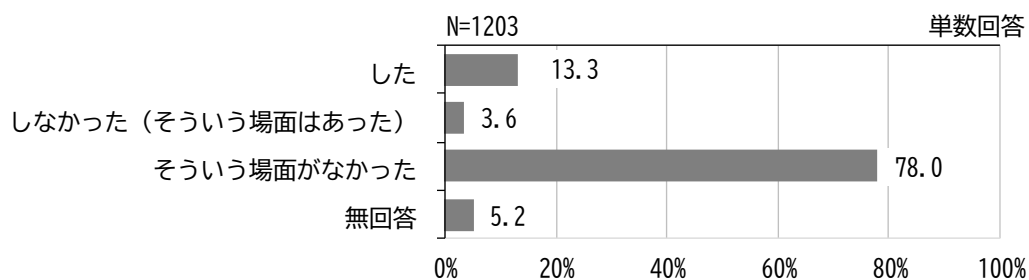


問 11 この1年で、家族以外のまわりの人に、問 10 ア～クのような手伝いや手助けをしましたか。また、手伝いや手助けをしてもらいましたか。（それぞれ1つに○）

① 手伝いや手助けをしたか

- この1年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをした経験は、「そういう場面がなかった（78.0%）」が最も多く、「した（13.3%）」、「しなかった（そういう場面はあった）（3.6%）」が続いている。

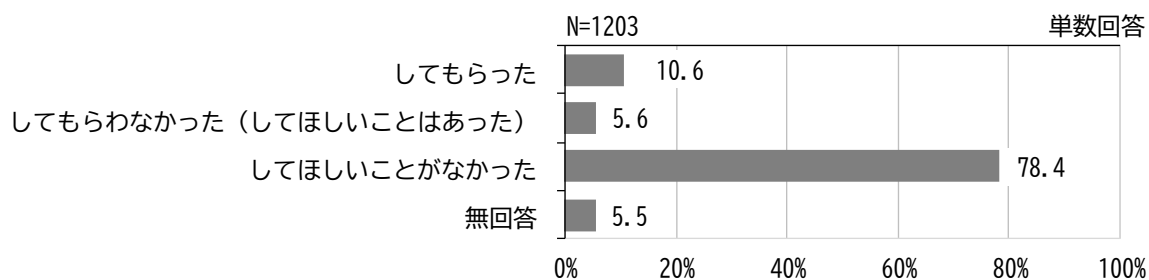
図表\_高齢者／手伝いや手助けをした経験（全体）



② 手伝いや手助けをしてもらったか

- この1年で家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをしてもらった経験は、「してほしいことがなかった（78.4%）」が最も多く、「してもらった（10.6%）」、「してもらわなかった（してほしいことはあった）（5.6%）」が続いている。

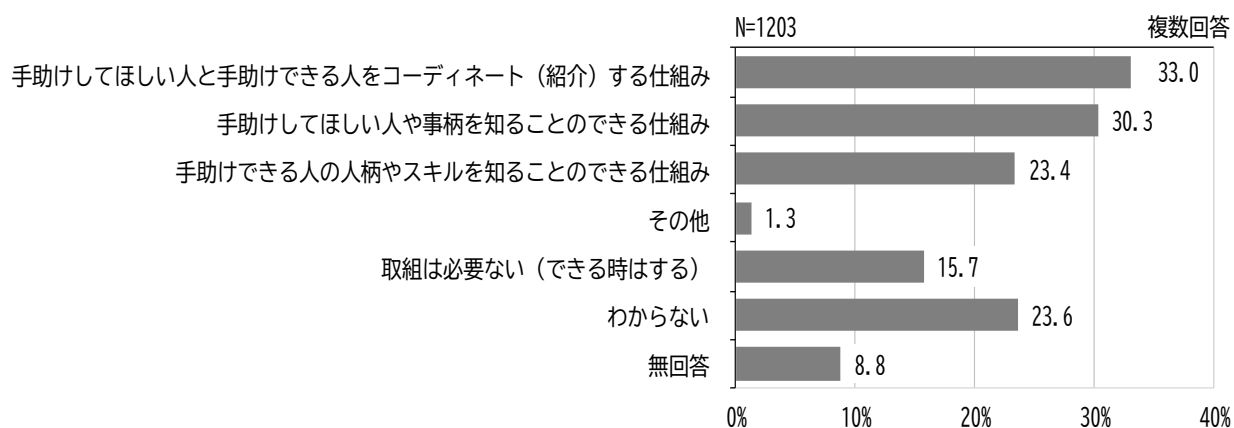
図表\_高齢者／手伝いや手助けをしてもらった経験（全体）



問 12 家族以外のまわりの人に，問 10 ア～クのような手伝いや手助けをする（してもら）に当たり，どのような取組があるとよいと思いますか。（いくつでも○）

- 家族以外のまわりの人に手伝いや手助けをする（してもら）ことを促すための取組は，「手助けしてほしい人と手助けできる人をコーディネート（紹介）する仕組み（33.0%）」が最も多く，「手助けしてほしい人や事柄を知ることのできる仕組み（30.3%）」，「わからない（23.6%）」が続いている。

図表\_高齢者／手伝いや手助けをする（してもら）ことを促すための取組（全体）



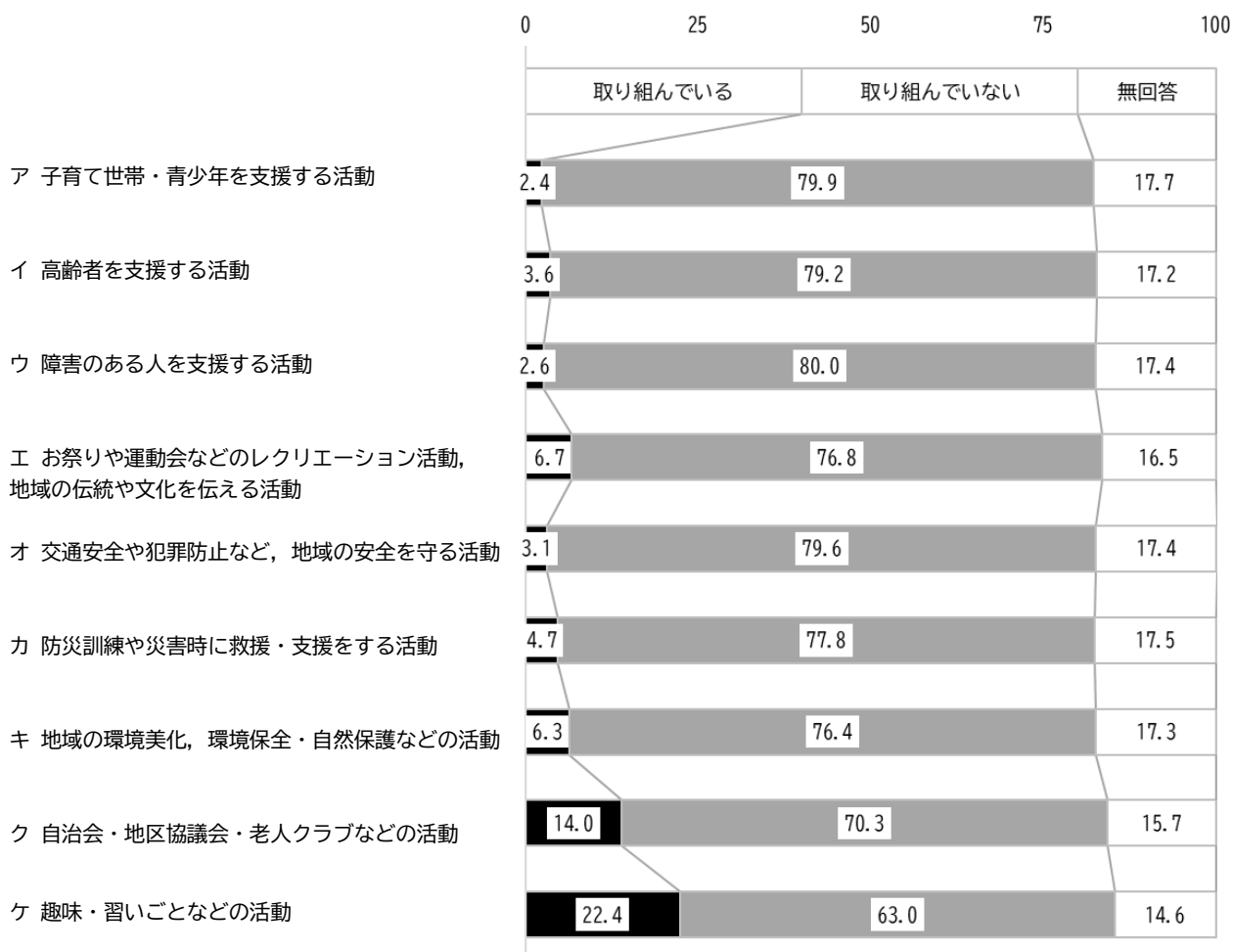
問 13 市内では多くの地域活動・ボランティア活動が行われています。①あなたは、次のような活動に取り組んでいますか、②今後、次のような活動に取り組みたいです。 (それぞれ1つに○)

① 地域活動・ボランティア活動の取組状況

- 地域活動・ボランティア活動の取組状況は、すべての項目で「取り組んでいない」が6割を超えている。
- 地域活動・ボランティア活動に「取り組んでいる」は、『趣味・習いごとなどの活動 (22.4%)』が最も多く、『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動 (14.0%)』が続いている。

図表\_高齢者/地域活動・ボランティア活動の取組状況 (全体)

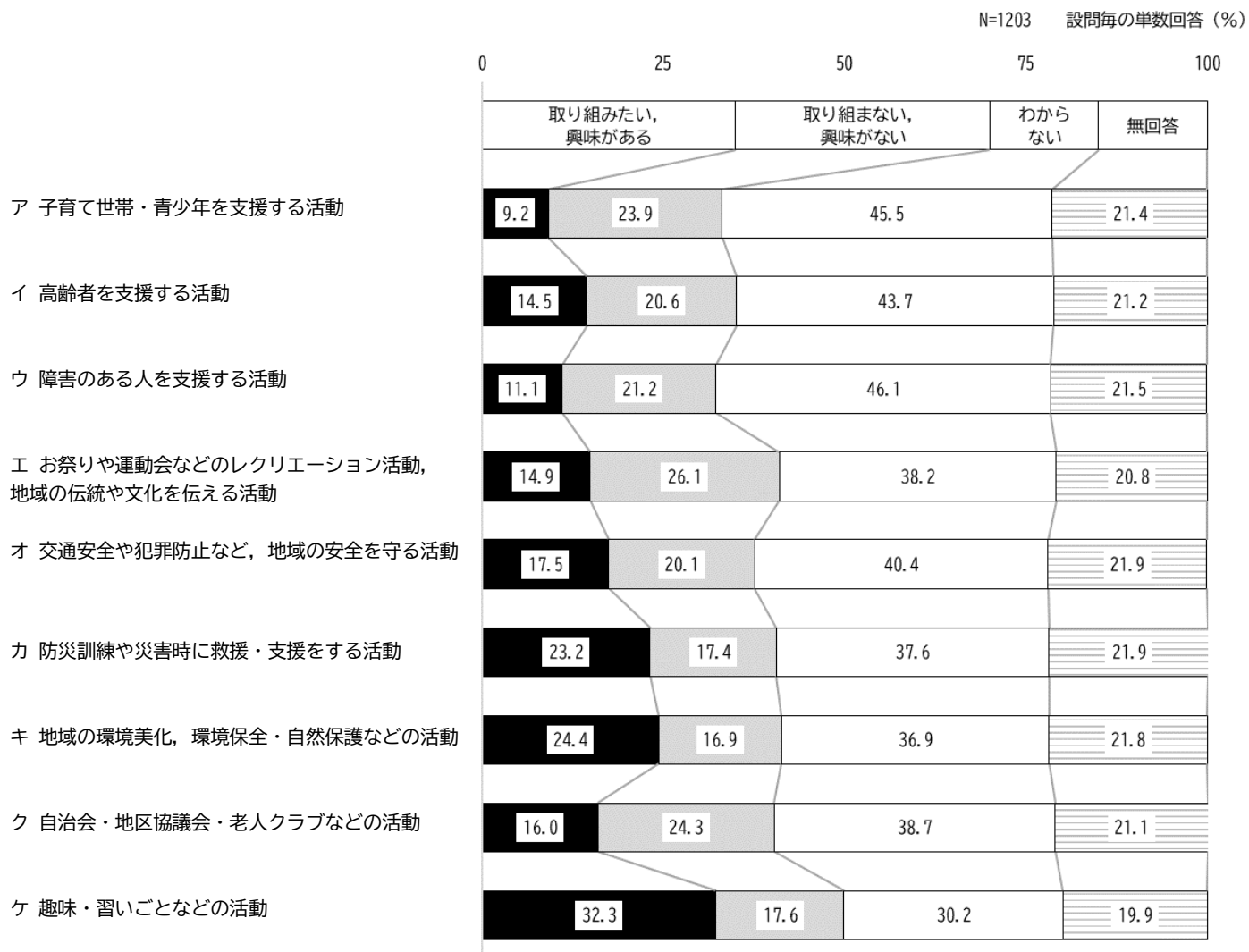
N=1203 設問毎の単数回答 (%)



② 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向

- 地域活動・ボランティア活動への今後の取組意向について、「取り組みたい、興味がある」は、『趣味・習いごとなどの活動（32.3%）』が最も多く、『地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動（24.4%）』，『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（23.2%）』が続いている。

図表\_高齢者／地域活動・ボランティア活動への取組意向（全体）



【回答者属性分析】

- ① 地域活動・ボランティア活動の取組状況
- 地域活動・ボランティア活動に「取り組んでいる」の割合を福祉圏域別にみると、すべての地域で『趣味・習いごとなどの活動』が最も多くなっている。

図表\_高齢者/地域活動・ボランティア活動の取組状況（福祉圏域別）（%）

<「取り組んでいる」の割合>

各項目1位に網掛		子育て世帯・青少年を支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
全	体 (N=1203)	2.4	3.6	2.6	6.7	3.1	4.7	6.3	14.0	22.4
福祉圏域別 (小学校区)	緑ヶ丘・滝坂 (n=147)	2.0	4.1	2.7	6.8	2.0	6.1	4.8	18.4	21.1
	若葉・調和 (n=140)	2.9	3.6	2.1	7.1	0.7	5.0	4.3	8.6	18.6
	上ノ原・柏野 (n=117)	1.7	0.9	1.7	4.3	3.4	4.3	4.3	7.7	20.5
	北ノ台・深大寺 (n=102)	3.9	7.8	4.9	4.9	7.8	2.9	8.8	16.7	28.4
	第二・八雲台・国領 (n=175)	1.7	3.4	2.9	6.9	1.7	4.0	5.1	14.3	21.7
	染地・杉森・布田 (n=137)	1.5	4.4	0.7	5.8	1.5	4.4	8.0	16.1	30.7
	第一・富士見台・多摩川 (n=174)	4.6	1.1	4.0	8.6	4.0	6.3	10.3	14.9	22.4
	第三・石原・飛田給 (n=182)	1.1	4.9	2.2	7.7	4.9	4.4	5.5	15.9	19.8

【回答者属性分析】

② 地域活動・ボランティア活動の今後の取組意向

- 地域活動・ボランティア活動に今後は「取り組みたい、興味がある」の割合を福祉圏域別にみると、すべての地域で『趣味・習いごとなどの活動』が最も多くなっている。

図表\_高齢者／地域活動・ボランティア活動への取組意向（福祉圏域別）（％）

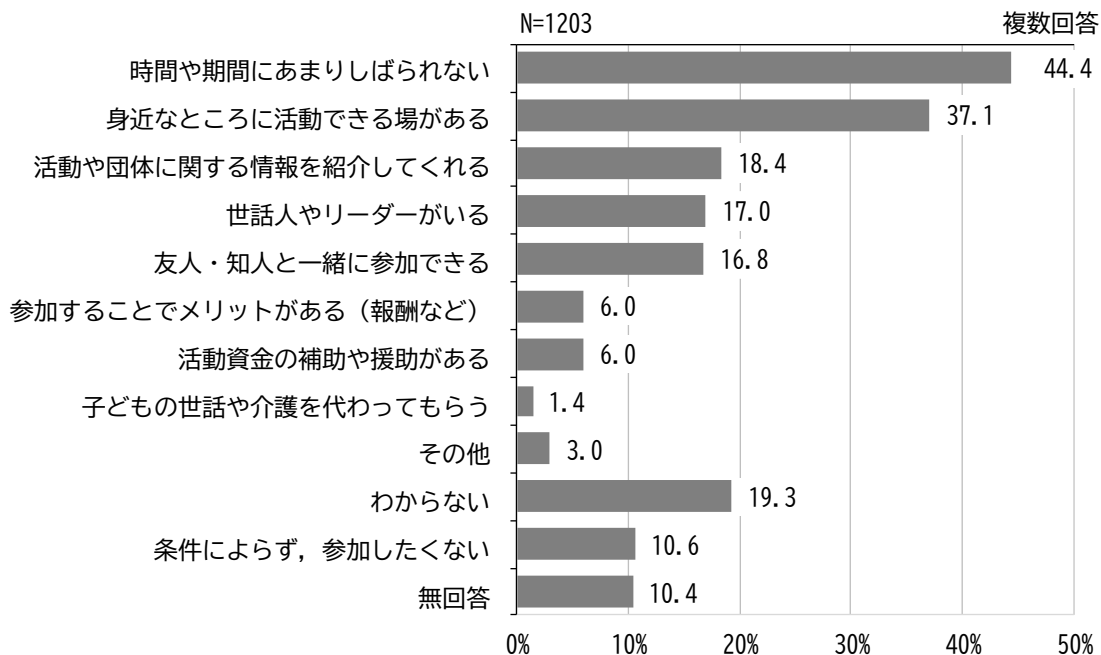
<「取り組みたい、興味がある」の割合>

各項目1位に網掛		子育て世帯・青少年を支援する活動	高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動
全	体 (N=1203)	9.2	14.5	11.1	14.9	17.5	23.2	24.4	16.0	32.3
福祉圏域別 (小学校区)	緑ヶ丘・滝坂 (n=147)	9.5	16.3	15.0	13.6	17.0	27.2	27.9	17.7	38.1
	若葉・調和 (n=140)	10.0	12.9	8.6	16.4	19.3	20.7	25.7	13.6	27.9
	上ノ原・柏野 (n=117)	13.7	17.1	10.3	14.5	20.5	23.1	23.1	12.8	34.2
	北ノ台・深大寺 (n=102)	8.8	12.7	14.7	17.6	22.5	23.5	27.5	19.6	28.4
	第二・八雲台・国領 (n=175)	7.4	14.9	10.3	13.7	13.1	18.9	21.1	16.6	32.6
	染地・杉森・布田 (n=137)	10.2	16.1	14.6	21.2	16.1	26.3	27.7	16.1	41.6
	第一・富士見台・多摩川 (n=174)	12.6	16.1	13.2	13.2	22.4	30.5	27.0	17.8	32.2
第三・石原・飛田給 (n=182)	4.4	11.5	6.0	12.1	14.8	19.2	20.9	15.9	28.0	

問 14 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動に参加・活動しやすいですか。（いくつでも○）

- 地域活動・ボランティア活動へ参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしぼられない(44.4%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場がある(37.1%)」、「わからない(19.3%)」が続いている。

図表\_高齢者／地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件（全体）

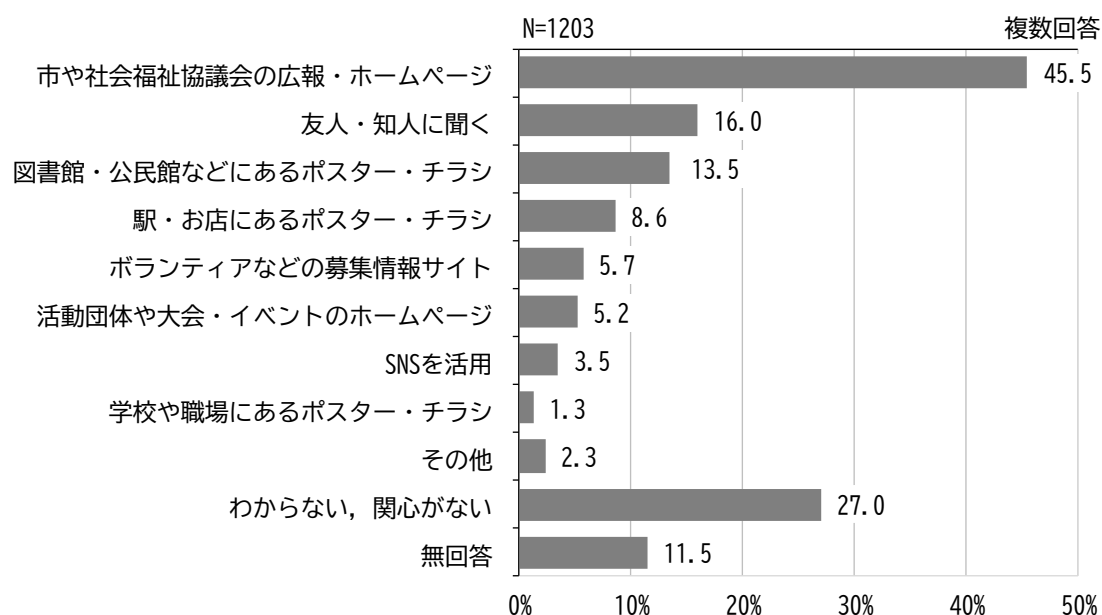




問 15 地域活動・ボランティア活動の情報をどのような方法で探しますか。(いくつでも○)

- 地域活動・ボランティア活動の情報を探す方法は、「市や社会福祉協議会の広報・ホームページ(45.5%)」が最も多く、「わからない, 関心がない(27.0%)」, 「友人・知人に聞く(16.0%)」, 「図書館・公民館などにあるポスター・チラシ(13.5%)」が続いている。

図表\_高齢者/地域活動・ボランティア活動の情報を探す方法(全体)

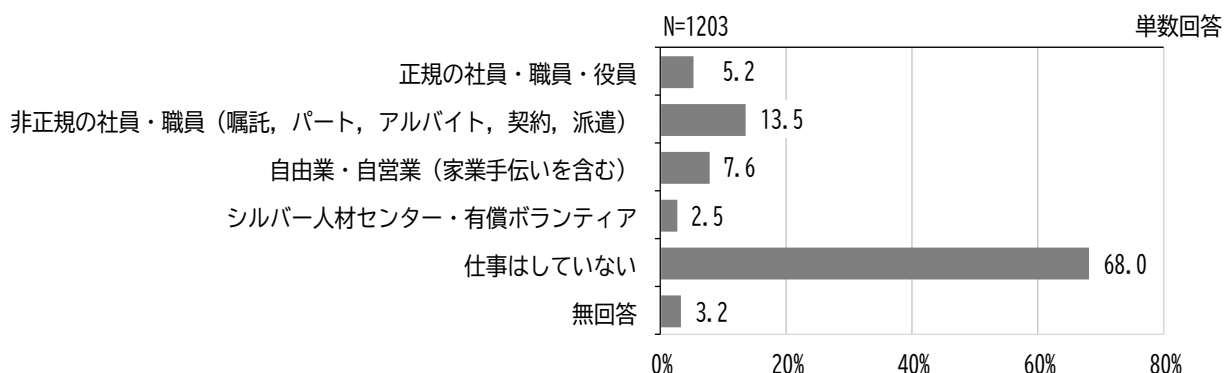


## 4 就労についておたずねします

問 16 現在の職業を教えてください。(1つに○)

- 現在の就労状況は、「仕事はしていない(68.0%)」が最も多く、「非正規の社員・職員(嘱託, パート, アルバイト, 契約, 派遣)(13.5%)」, 「自由業・自営業(家業手伝いを含む)(7.6%)」が続いている。

図表\_高齢者/就労状況(全体)



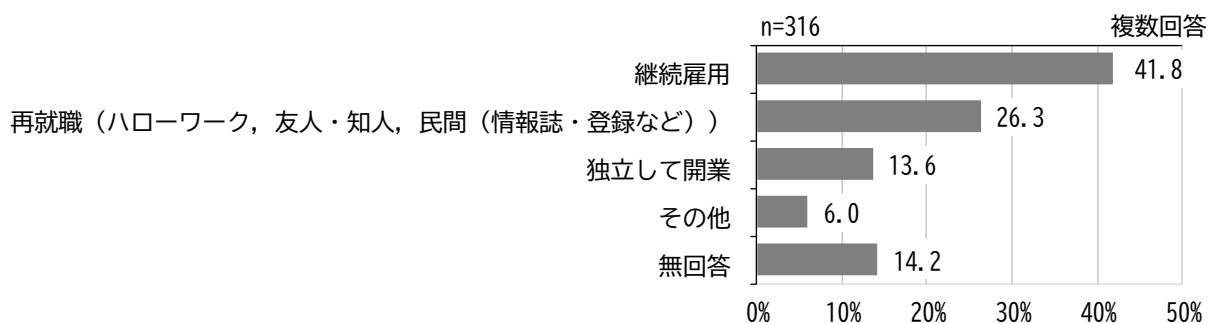
付問 問 16 で「会社などで働いている」※と答えた人におたずねします。現在の職業に就いている経緯を教えてください。(いくつでも○)

※「正規の社員・職員・役員」, 「非正規の社員・職員」, 「自由業・自営業」のいずれかに回答した人

- 会社などで働いていると回答した人に現在の職業に就いた経緯をたずねたところ、「継続雇用(41.8%)」が最も多く、「再就職(ハローワーク, 友人・知人, 民間(情報誌・登録など))(26.3%)」, 「独立して開業(13.6%)」が続いている。

図表\_高齢者/現在の職業に就いた経緯(全体)

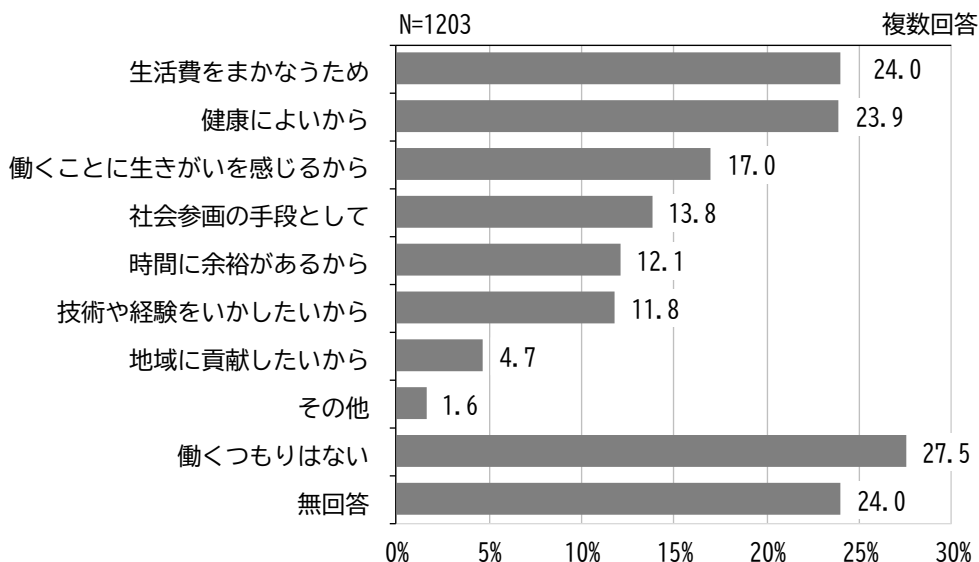
<「会社などで働いている」と回答した人>



問 17 あなたが仕事をする（したいと思う）主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 仕事をする（したい）理由は、「生活費をまかなうため（24.0%）」が最も多く、「健康によいから（23.9%）」、「働くことに生きがいを感じるから（17.0%）」が続いている。また、「働くつもりはない」が27.5%である。

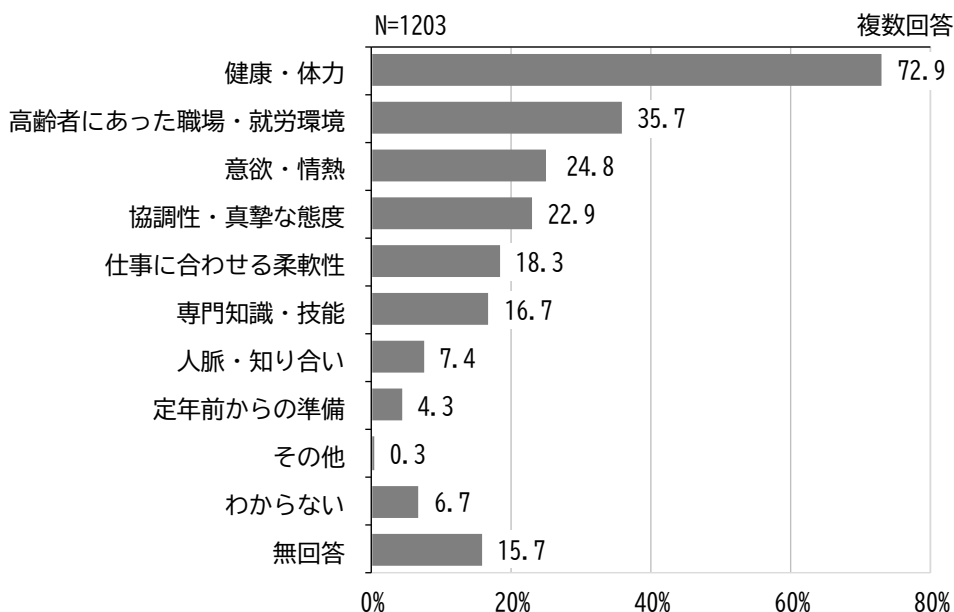
図表\_高齢者/仕事をする（したい）理由（全体）



問 18 高齢者が就労する（続ける）ために特に必要なことは何ですか。（3つまで○）

- 高齢者が就労する（続ける）ために必要なことは、「健康・体力（72.9%）」が最も多く、「高齢者にあった職場・就労環境（35.7%）」、「意欲・情熱（24.8%）」が続いている。

図表\_高齢者/高齢者が就労する（続ける）ために必要なこと（全体）

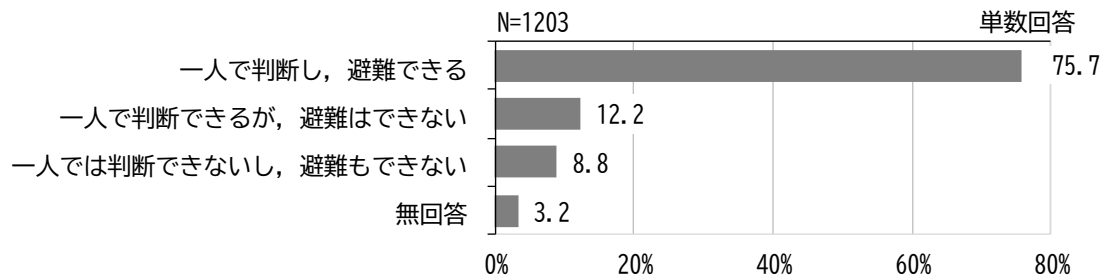


## 5 災害時の対策についておたずねします

問 19 災害や火災などの緊急時に一人で避難することができますか。(1つに○)

- 災害時の避難が一人でできるかは、「一人で判断し、避難できる(75.7%)」、「一人で判断できるが、避難はできない(12.2%)」、「一人では判断できないし、避難もできない(8.8%)」である。

図表\_高齢者/図表 緊急時に一人で避難できるか(全体)



【回答者属性分析】

- 緊急時に一人で避難できるかの割合を性別にみると、すべての区分で「一人で判断し、避難できる」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で「一人で判断し、避難できる」が最も多くなっている。また、85歳以上で「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人では判断できないし、避難もできない」が2割を超えている。
- 性・年代別にみると、すべての区分で「一人で判断し、避難できる」が最も多くなっている。また、男性・85歳以上で「一人で判断できるが、避難はできない」が1割台、「一人では判断できないし、避難もできない」が2割を超えている。
- 女性・85歳以上で「一人で判断できるが、避難はできない」と「一人では判断できないし、避難もできない」が2割を超えている。

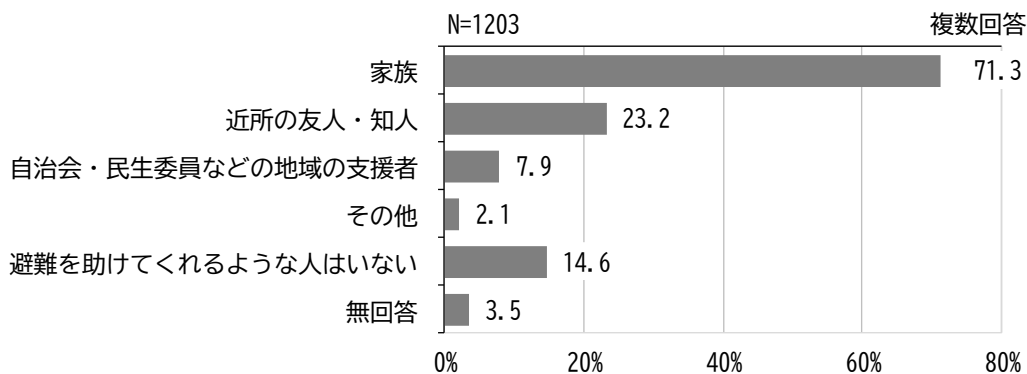
図表\_高齢者／緊急時に一人で避難できるか（性別、年代別、性・年代別）（％）

各項目1位に網掛			一人で判断し、避難できる	一人で判断できるが、避難はできない	一人では判断できないし、避難もできない	無回答	
全	体	(N=1203)	75.7	12.2	8.8	3.2	
性別	男性	(n=501)	84.2	7.6	6.0	2.2	
	女性	(n=666)	69.5	15.6	11.0	3.9	
	回答しない	(n=5)	60.0	20.0	20.0	0.0	
年代別	65～74歳	(n=532)	89.7	5.3	3.2	1.9	
	75～84歳	(n=455)	73.0	14.5	8.1	4.4	
	85歳以上	(n=193)	45.1	25.4	25.4	4.1	
性・年代別	男性	65～74歳	(n=248)	95.2	2.0	1.6	1.2
		75～84歳	(n=177)	82.5	10.2	4.5	2.8
		85歳以上	(n=76)	52.6	19.7	23.7	3.9
	女性	65～74歳	(n=277)	84.8	8.3	4.3	2.5
		75～84歳	(n=273)	66.7	17.2	10.6	5.5
		85歳以上	(n=115)	40.0	29.6	27.0	3.5

問 20 災害や火災などの緊急時に避難を助けてくれる人がいますか。(いくつでも○)

- 災害や火災などの緊急時に避難を助けてくれる人は、「家族 (71.3%)」が最も多く、「近所の友人・知人 (23.2%)」, 「避難を助けてくれるような人はいない (14.6%)」が続いている。

図表\_高齢者/災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無 (全体)



【回答者属性分析】

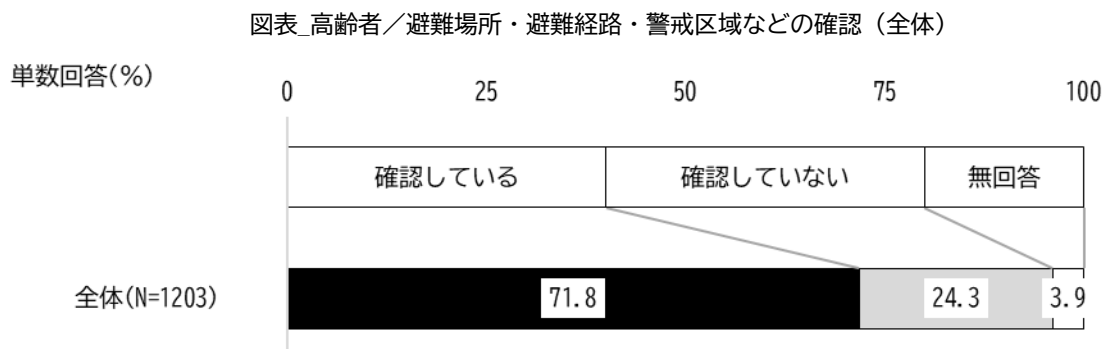
- 災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無の割合を性・年代別にみると、すべての区分で「家族」が最も多くなっている。また、男性・65～74歳で「近所の友人・知人」と「避難を助けてくれるような人はいない」が2割を超えている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしで「避難を助けてくれるような人はいない」、それ以外の区分で「家族」が最も多くなっている。

図表\_高齢者/災害時の避難の際、手助けを頼める人の有無 (性・年代別, 家族構成別) (%)

各項目1位に網掛			家族	近所の友人・知人	自治会・民生委員などの地域の支援者	その他	避難を助けてくれるような人はいない	無回答
全 体 (N=1203)			71.3	23.2	7.9	2.1	14.6	3.5
性・年代別	男性	65～74歳 (n=248)	68.5	21.4	7.3	0.0	21.0	2.0
		75～84歳 (n=177)	73.4	19.2	10.7	1.7	11.3	4.5
		85歳以上 (n=76)	72.4	17.1	7.9	9.2	11.8	3.9
	女性	65～74歳 (n=277)	78.3	26.0	5.4	0.7	11.9	2.2
		75～84歳 (n=273)	68.1	28.2	7.7	1.5	14.7	5.9
		85歳以上 (n=115)	65.2	14.8	11.3	7.0	13.0	3.5
家族構成別	ひとり暮らし (n=261)	25.7	28.4	10.7	3.8	39.5	5.0	
	夫婦のみ (n=536)	80.8	20.0	7.3	0.7	10.6	2.8	
	その他 (n=391)	88.7	24.6	6.9	2.8	4.1	2.8	

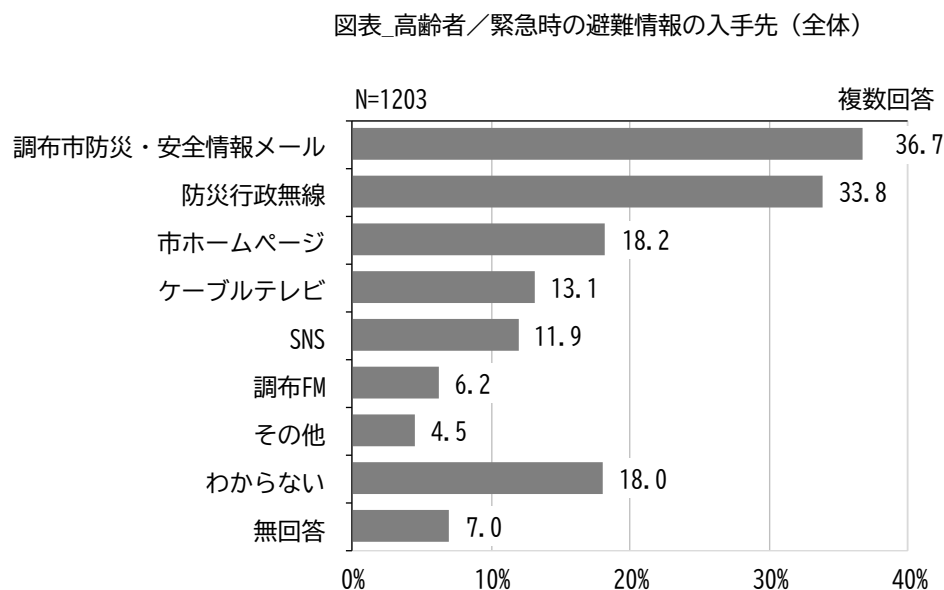
問 21 防災マップ・洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。(1つに○)

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認は、「確認している(71.8%)」、「確認していない(24.3%)」である。



問 22 災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。(いくつでも○)

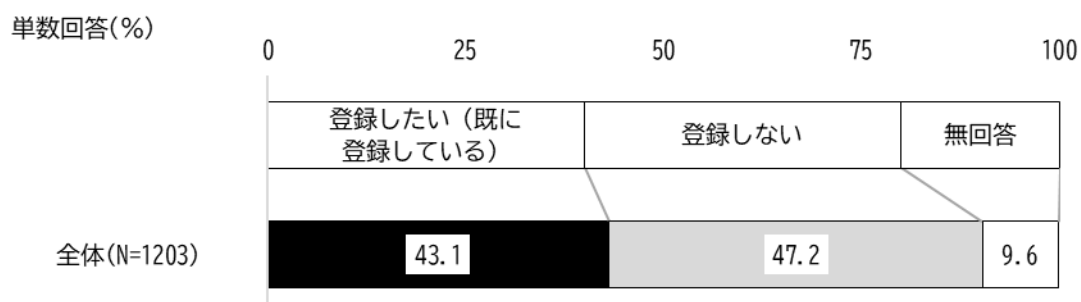
- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール(36.7%)」が最も多く、「防災行政無線(33.8%)」、「市ホームページ(18.2%)」が続いている。



問 23 一人で避難することが難しくなった場合に備えて、避難行動要支援者名簿に登録する意向はありますか。(1つに○)

- 避難行動要支援者名簿への登録意向は、「登録しない(47.2%)」、「登録したい(既に登録している)(43.1%)」である。

図表\_高齢者/避難行動要支援者名簿への登録意向(全体)

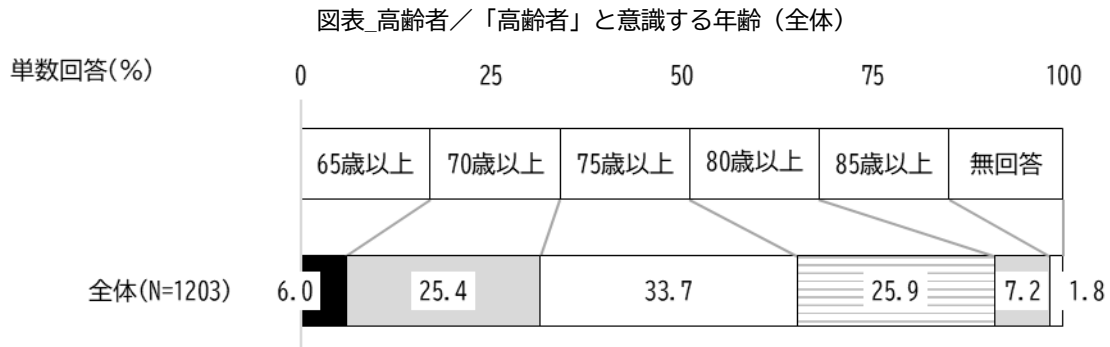




## 6 健康増進，権利擁護の取組についておたずねします

問 24 「高齢者」と意識する年齢は，何歳からですか。あなたの意識にもっとも近いものをお答えください。（1つに○）

- 「高齢者」を意識する年齢は，「75歳以上（33.7%）」が最も多く，「80歳以上（25.9%）」，「70歳以上（25.4%）」が続いている。



### 【回答者属性分析】

- 「高齢者」を意識する年齢の割合を性・年代別にみると，男性，女性ともに65～74歳で「70歳以上」，75～84歳で「75歳以上」，85歳以上で「80歳以上」がそれぞれ最も多くなっている。

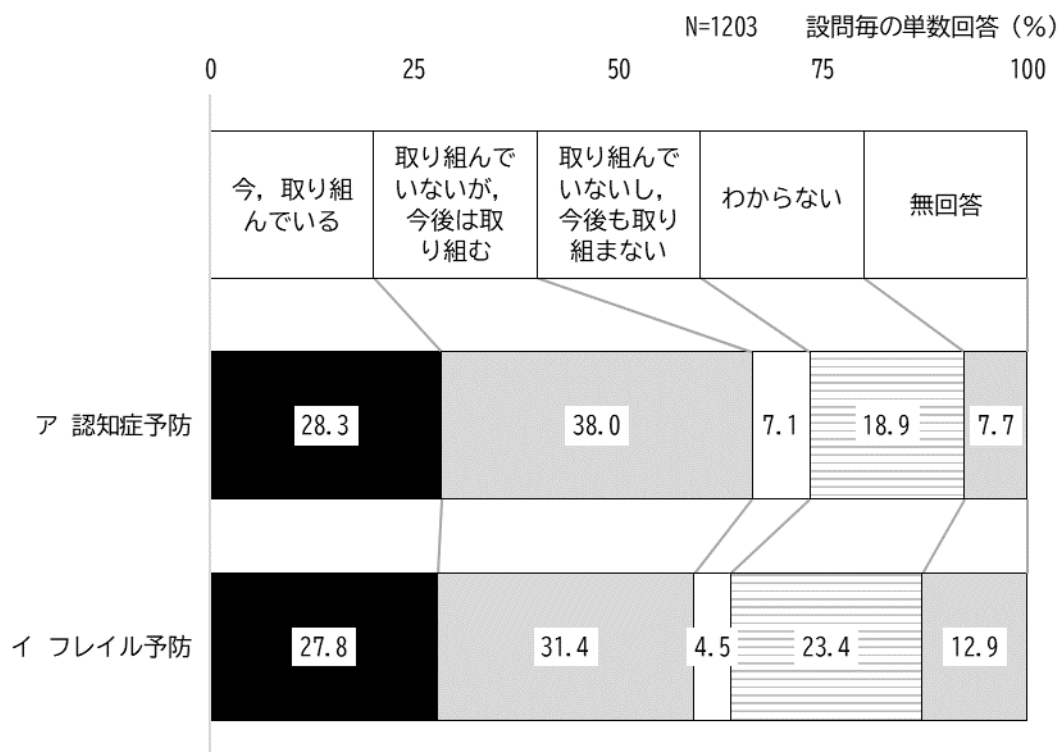
図表\_高齢者／「高齢者」と意識する年齢（性・年代別）（%）

各項目1位に網掛			65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	無回答
全 体 (N=1203)			6.0	25.4	33.7	25.9	7.2	1.8
性・年代別	男性	65～74歳 (n=248)	12.5	35.9	34.7	14.5	1.6	0.8
		75～84歳 (n=177)	2.8	18.6	40.7	32.2	4.0	1.7
		85歳以上 (n=76)	0.0	9.2	22.4	35.5	30.3	2.6
	女性	65～74歳 (n=277)	9.0	38.3	34.7	15.5	1.1	1.4
		75～84歳 (n=273)	1.1	19.8	38.8	33.3	5.9	1.1
		85歳以上 (n=115)	3.5	2.6	16.5	44.3	27.0	6.1

問 25 あなたは、健やかに暮らすために、次のことに取り組んでいますか。（それぞれ1つに○）

- 健やかに暮らすための取組について、『認知症予防』は、「取り組んでいないが、今後は取り組む（38.0%）」が最も多く、「今、取り組んでいる（28.3%）」が続いている。
- 『フレイル予防』は、「取り組んでいないが、今後は取り組む（31.4%）」が最も多く、「今、取り組んでいる（27.8%）」が続いている。

図表\_高齢者/健やかに暮らすための取組（全体）

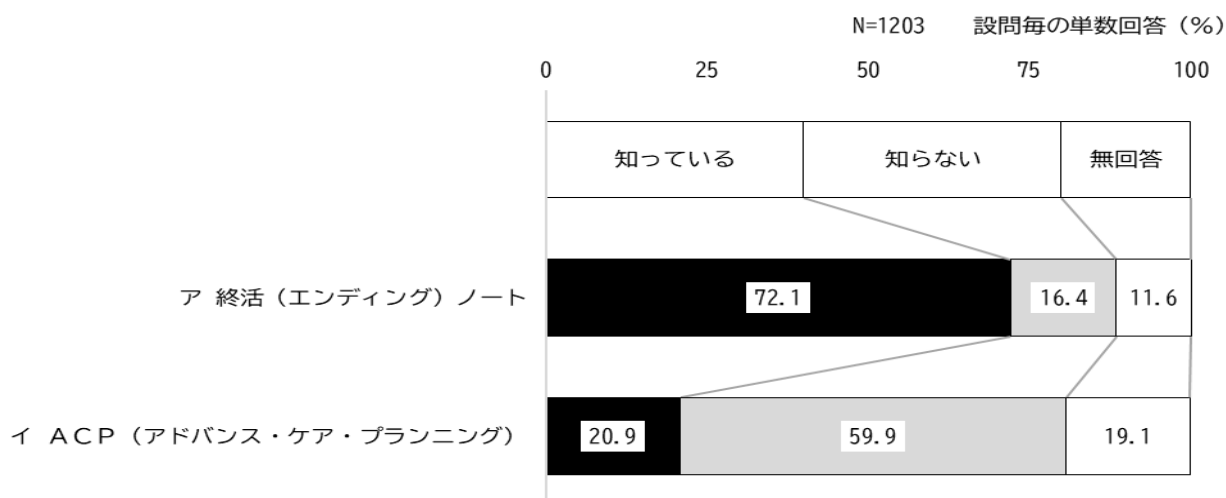


問 26 近年、人生のエンディングに向けて、元気なうちからさまざまな準備をする活動が広がっています。①あなたは、次のような事柄をご存知でしたか。 ②今後、次のような事柄を活用したいと思いますか。（それぞれ1つに○）

① 人生のエンディングに向けた事柄の認知度

- 人生のエンディングに向けた事柄の認知度について、『終活（エンディング）ノート』は、「知っている（72.1%）」、「知らない（16.4%）」である。
- 『ACP（アドバンス・ケア・プランニング）』は、「知っている（20.9%）」、「知らない（59.9%）」である。

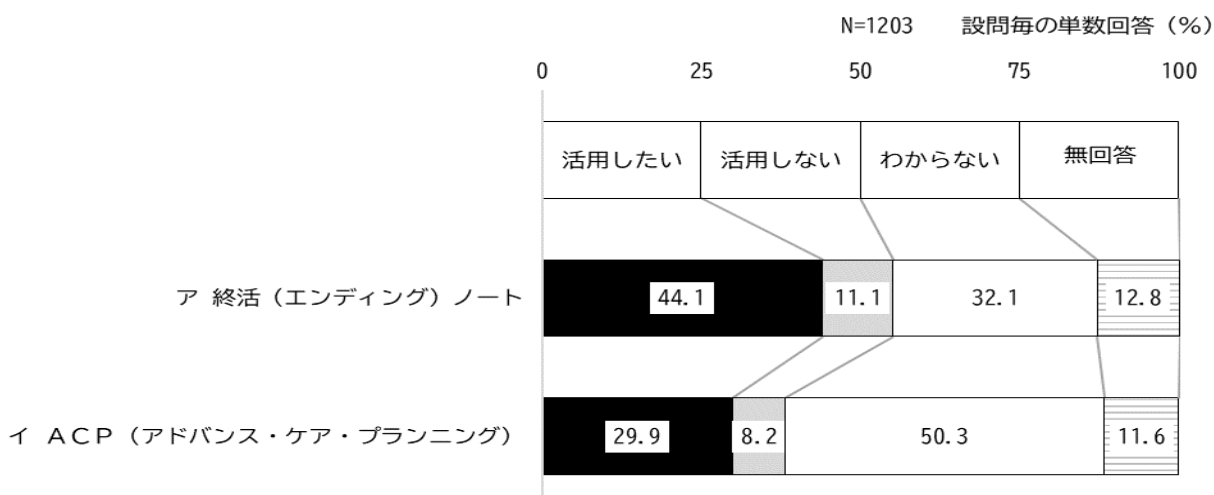
図表\_高齢者／人生のエンディングに向けた事柄の認知度（全体）



② 人生のエンディングに向けた事柄の利用意向

- 人生のエンディングに向けた事柄の利用意向について、『終活（エンディング）ノート』は、「活用したい（44.1%）」、「活用しない（11.1%）」、「わからない（32.1%）」となっている。
- 『ACP（アドバンス・ケア・プランニング）』は、「活用したい（29.9%）」、「活用しない（8.2%）」、「わからない（50.3%）」となっている。

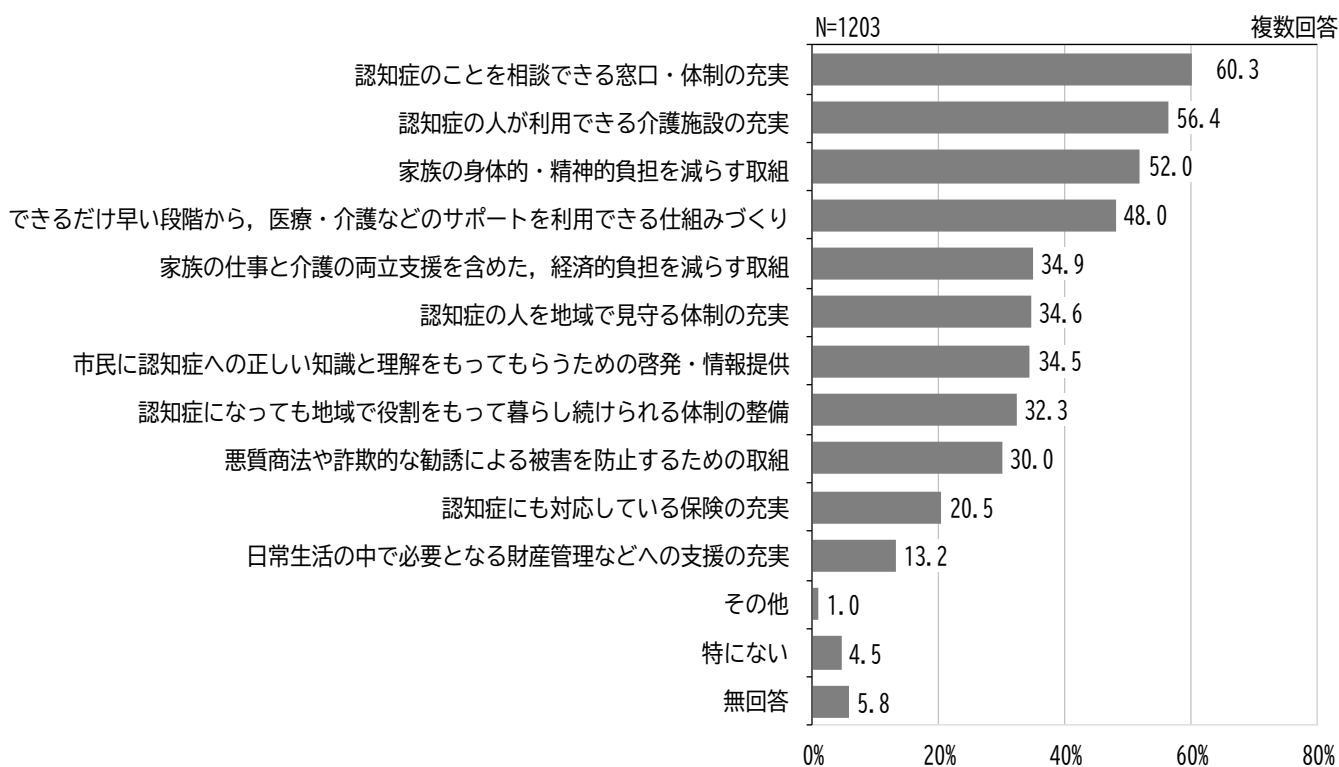
図表\_高齢者／人生のエンディングに向けた事柄の利用意向（全体）



問 27 認知症の人やその家族を支えるため、どのような取組に力を入れる必要があると思いますか。（いくつでも○）

- 認知症の人やその家族を支える重点施策は、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実（60.3%）」が最も多く、「認知症の人が利用できる介護施設の充実（56.4%）」，「家族の身体的・精神的負担を減らす取組（52.0%）」が続いている。

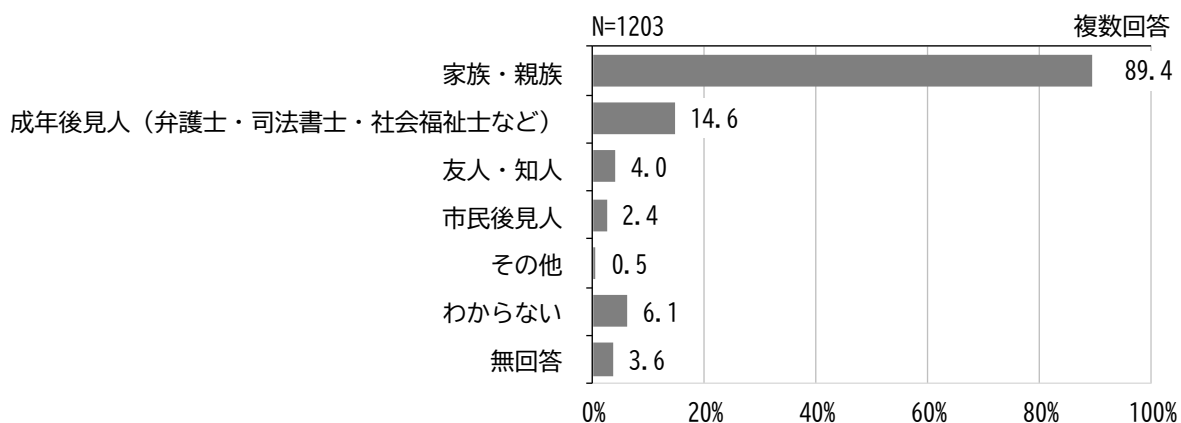
図表\_高齢者／認知症の人やその家族を支える重点施策（全体）



問 28 ご自身の判断能力が低下し、財産の管理や身の回りの手続きなどに支援が必要となった場合、誰に支援をしてほしいですか。（2つまで○）

- 財産の管理や身の回りの手続きなどが必要となった場合の支援者は、「家族・親族（89.4%）」が最も多く、「成年後見人（弁護士・司法書士・社会福祉士など）（14.6%）」が続いている。

図表\_高齢者／財産の管理や身の回りの手続きなどが必要となった場合の支援者（全体）

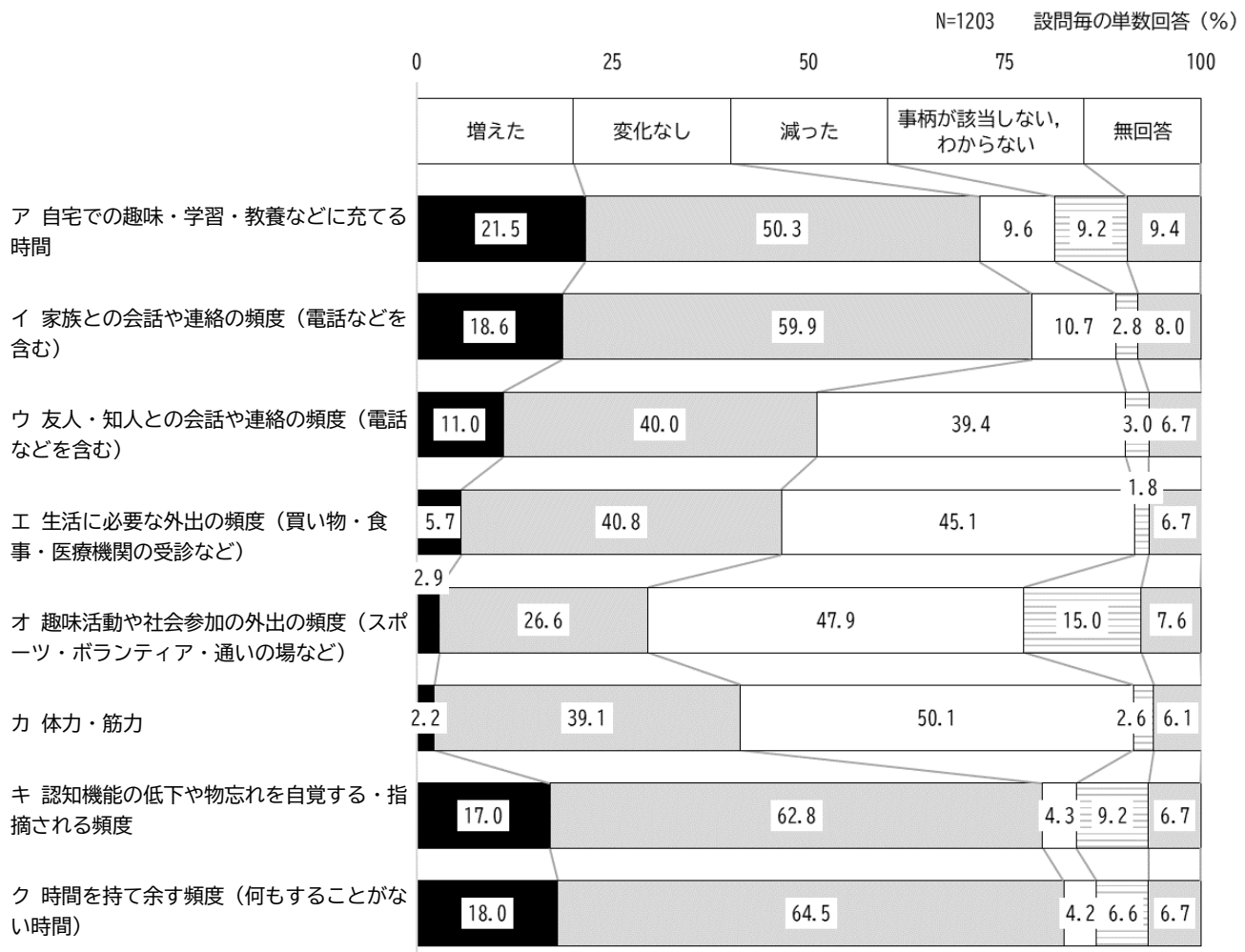


## 7 暮らしのことについておたずねします

問 29 新型コロナウイルス感染症の流行により、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか（影響があった時期は問いません）。（それぞれ1つに○）

- 新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響について、「増えた」の割合は、『自宅での趣味・学習・教養などに充てる時間（21.5%）』が最も多く、『家族との会話や連絡の頻度（電話などを含む）（18.6%）』、『時間を持って余す頻度（何もすることがない時間）（18.0%）』が続いている。
- 一方、「減った」の割合は、『体力・筋力（50.1%）』が最も多く、『趣味活動や社会参加の外出の頻度（スポーツ・ボランティア・通いの場など）（47.9%）』、『生活に必要な外出の頻度（買い物・食事・医療機関の受診など）（45.1%）』が続いている。

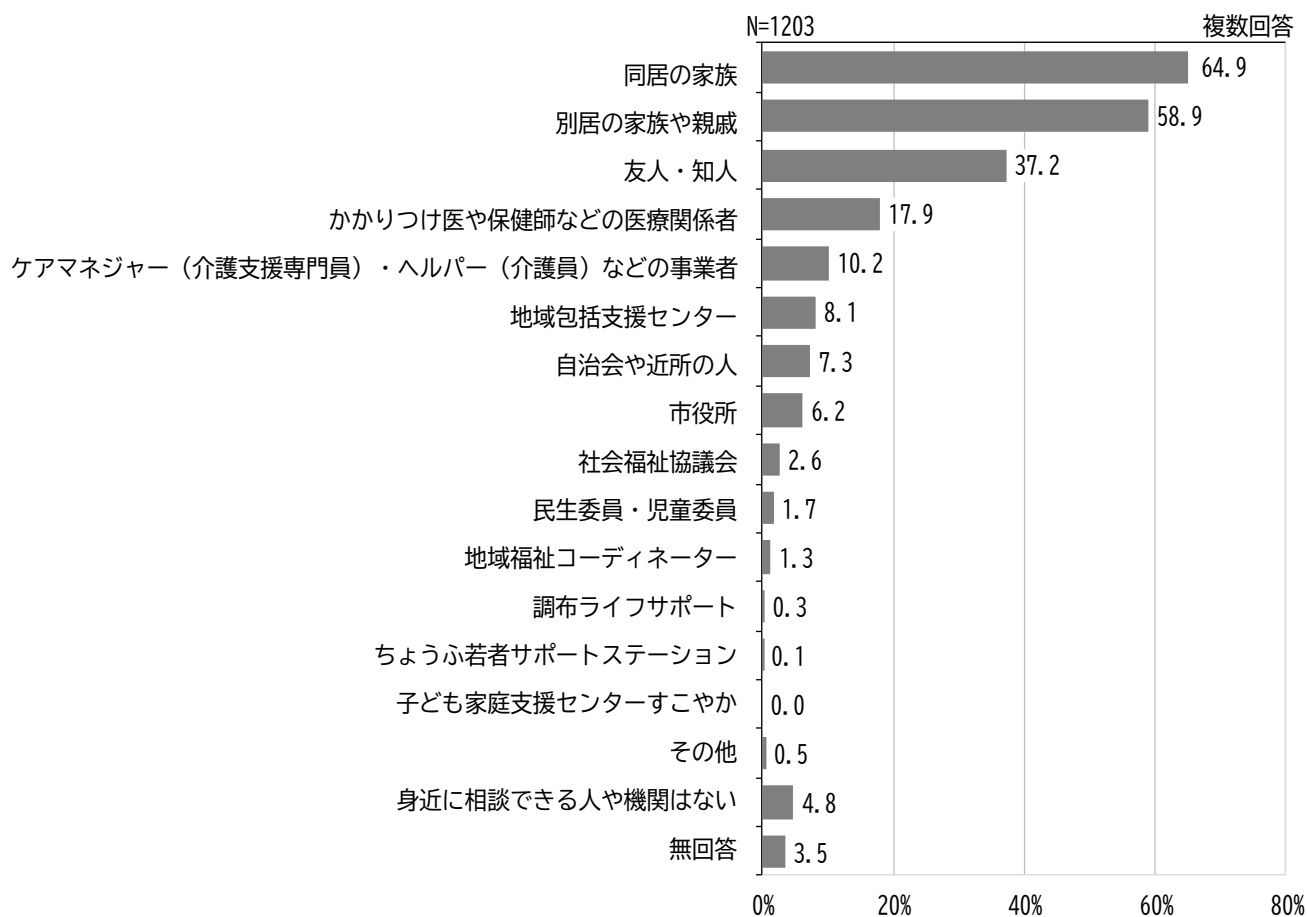
図表\_高齢者／新型コロナウイルス感染症の流行による暮らしへの影響（全体）



問 30 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

- 困ったときの身近な相談相手(人・機関)は、「同居の家族(64.9%)」が最も多く、「別居の家族や親戚(58.9%)」, 「友人・知人(37.2%)」, と続いている。

図表\_高齢者/困ったときの身近な相談相手(人・機関)(全体)



【回答者属性分析】

- 困ったときの身近な相談相手の割合を年代別にみると、65～74歳、75～84歳で「同居の家族」、85歳以上で「別居の家族や親戚」が最も多くなっている。また、85歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」と「かかりつけ医や保健師などの医療関係者」が2割を超えている。
- 性・年代別にみると、女性・75～84歳、85歳以上で「別居の家族や親戚」、それ以外の区分で「同居の家族」が最も多くなっている。また、男性・85歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者」と「かかりつけ医や保健師などの医療関係者」が3割を超えており、女性・85歳以上の2割台に比べて多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、すべての地域で「同居の家族」が最も多くなっている。

図表\_高齢者／困ったときの身近な相談相手（年代別，性・年代別，福祉圏域別）（％）

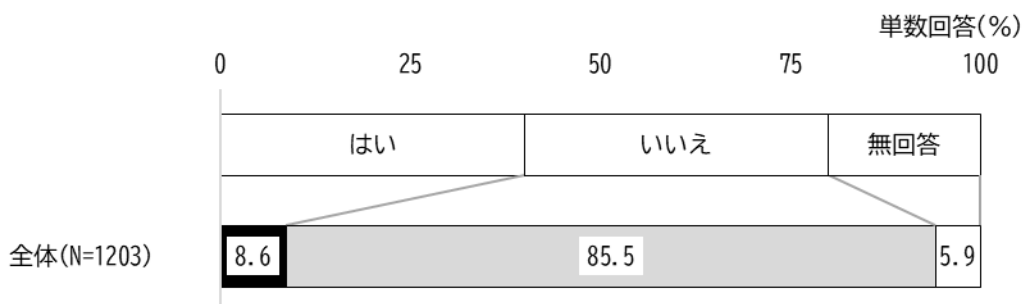
		同居の家族	別居の家族や親戚	自治会や近所の人	友人・知人	民生委員・児童委員	地域福祉コーディネーター	ケアマネジャー（介護支援専門員）・ヘルパー（介護員）などの事業者	かかりつけ医や保健師などの医療関係者	市役所	社会福祉協議会	地域包括支援センター	ちようふ若者サポートステーション	子ども家庭支援センターすこやか	調布ライフサポート	その他	身近に相談できる人や機関はない	無回答		
各項目1位に網掛																				
全	体	(N=1203)	64.9	58.9	7.3	37.2	1.7	1.3	10.2	17.9	6.2	2.6	8.1	0.1	0.0	0.3	0.5	4.8	3.5	
年代別	65～74歳	(n=532)	71.1	57.7	4.9	43.8	0.8	0.8	3.0	14.7	5.8	2.1	4.7	0.2	0.0	0.4	0.6	5.8	1.5	
	75～84歳	(n=455)	62.2	59.6	9.9	38.2	2.6	1.8	10.5	18.0	7.5	3.7	10.8	0.0	0.0	0.4	0.4	3.1	4.2	
	85歳以上	(n=193)	56.0	61.7	8.3	18.7	2.1	2.1	29.0	26.9	4.1	0.5	11.9	0.0	0.0	0.0	0.5	5.2	6.7	
性・年代別	男性	65～74歳	(n=248)	71.8	50.4	4.4	35.1	0.8	1.6	2.4	17.3	7.3	2.4	4.0	0.4	0.0	0.8	0.4	7.3	2.4
		75～84歳	(n=177)	68.9	57.1	10.2	31.1	3.4	2.3	8.5	17.5	11.9	5.1	12.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.5
		85歳以上	(n=76)	68.4	61.8	6.6	15.8	1.3	3.9	34.2	36.8	6.6	0.0	13.2	0.0	0.0	1.3	2.6	5.3	
	女性	65～74歳	(n=277)	71.1	63.9	4.7	52.3	0.7	0.0	3.6	12.6	4.7	1.8	5.4	0.0	0.0	0.0	0.7	4.3	0.7
		75～84歳	(n=273)	58.6	61.2	9.9	43.6	2.2	1.5	11.7	17.9	4.8	2.6	9.5	0.0	0.0	0.7	0.7	2.2	4.0
		85歳以上	(n=115)	48.7	61.7	9.6	20.0	2.6	0.9	26.1	20.0	2.6	0.9	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	7.0
福祉圏域別（小学校区）	緑ヶ丘・滝坂	(n=147)	70.1	61.9	7.5	41.5	0.7	1.4	6.1	19.0	4.1	0.7	6.8	0.0	0.0	0.0	0.7	3.4	2.7	
	若葉・調和	(n=140)	67.9	55.7	6.4	37.9	2.1	2.1	8.6	16.4	7.1	4.3	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.7	
	上ノ原・柏野	(n=117)	65.8	57.3	7.7	37.6	1.7	0.9	8.5	12.8	5.1	0.9	6.8	0.0	0.0	0.0	0.9	6.0	1.7	
	北ノ台・深大寺	(n=102)	62.7	57.8	7.8	38.2	2.0	1.0	15.7	18.6	9.8	2.9	9.8	0.0	0.0	1.0	0.0	5.9	2.9	
	第二・八雲台・国領	(n=175)	62.9	61.1	9.7	36.6	1.1	1.1	6.9	16.0	8.0	2.9	6.9	0.0	0.0	0.6	1.7	4.0	4.0	
	染地・杉森・布田	(n=137)	65.7	61.3	6.6	38.7	2.2	0.7	13.1	21.2	5.1	3.6	10.2	0.0	0.0	0.0	0.7	2.9	2.9	
	第一・富士見台・多摩川	(n=174)	60.9	58.0	5.2	35.1	2.3	1.7	12.1	18.4	3.4	2.9	10.3	0.6	0.0	0.0	0.0	6.9	4.0	
	第三・石原・飛田給	(n=182)	67.0	60.4	8.2	35.7	1.6	1.6	11.0	20.9	6.6	1.1	5.5	0.0	0.0	1.1	0.0	3.8	1.6	



問 31 現在、あなた自身やご家族は、どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。(1つに○)

- 相談先がわからない生活上の困りごとの有無は、「はい (8.6%)」, 「いいえ (85.5%)」である。

図表\_高齢者/相談先がわからない生活上の困りごとの有無 (全体)

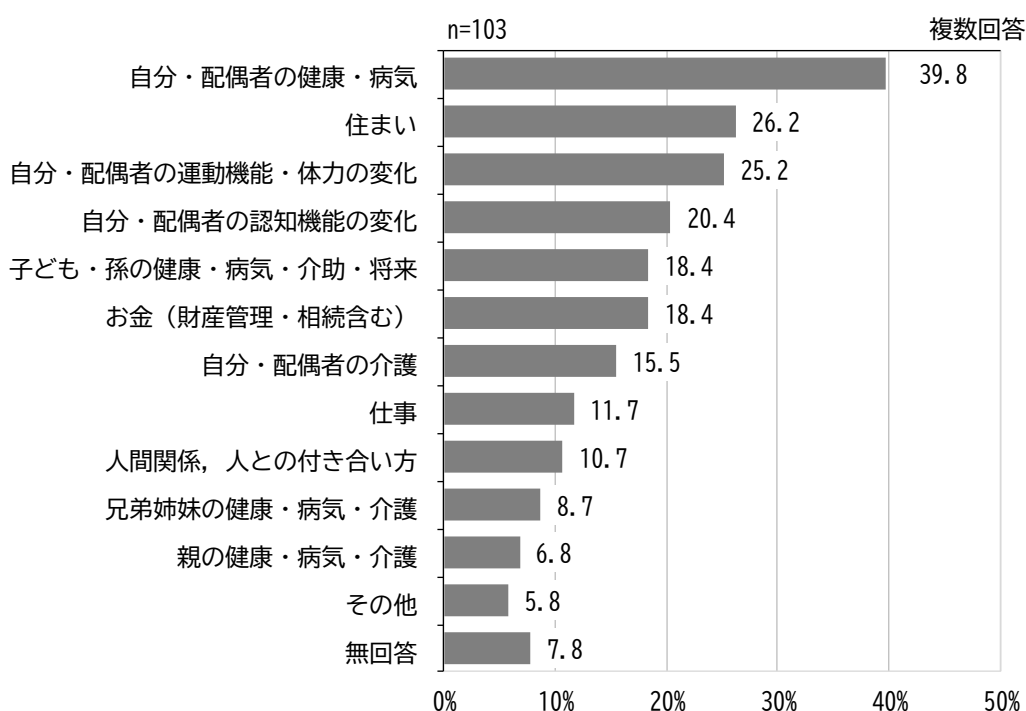


付問 問 31 で「1 はい」と答えた人におたずねします。差し支えなければ、お困りの内容をお聞かせください。(いくつでも○)

- 相談先がわからない生活上の困りごとを抱えている人の困りごとの内容は、「自分・配偶者の健康・病気 (39.8%)」が最も多く、「住まい (26.2%)」, 「自分・配偶者の運動機能・体力の変化 (25.2%)」が続いている。

図表\_高齢者/相談先がわからない生活上の困りごとの内容 (全体)

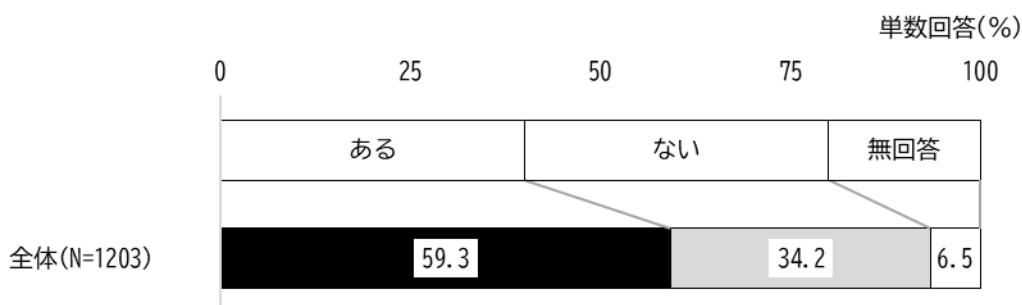
<相談先がわからない生活上の困りごとで「はい」と回答した人>



問 32 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごす場所がありますか。(1つに○)

- 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごす場所（サードプレイス）の有無は、「ある（59.3%）」、「ない（34.2%）」である。

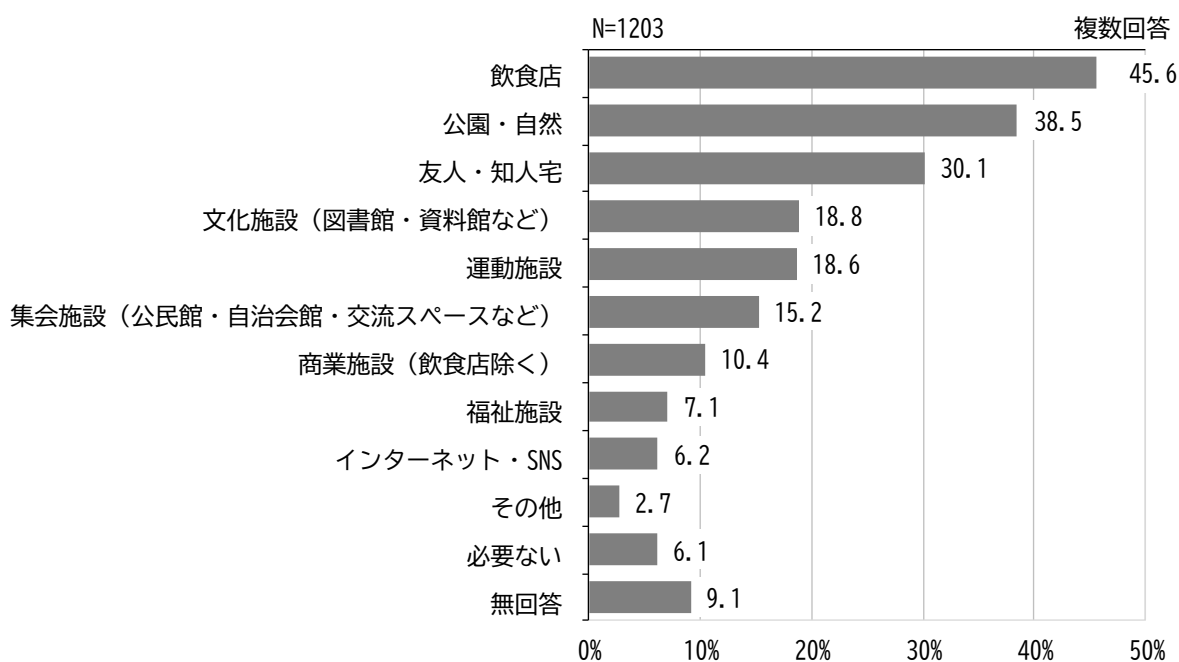
図表\_高齢者/自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごす場所の有無（全体）



問 33 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごす場合、どのような場所を望みますか。(いくつでも○)

- 自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごしたい場所は、「飲食店(45.6%)」が最も多く、「公園・自然(38.5%)」、「友人・知人宅(30.1%)」が続いている。

図表\_高齢者/自宅以外に一人で、あるいは友人・知人と過ごしたい場所（全体）

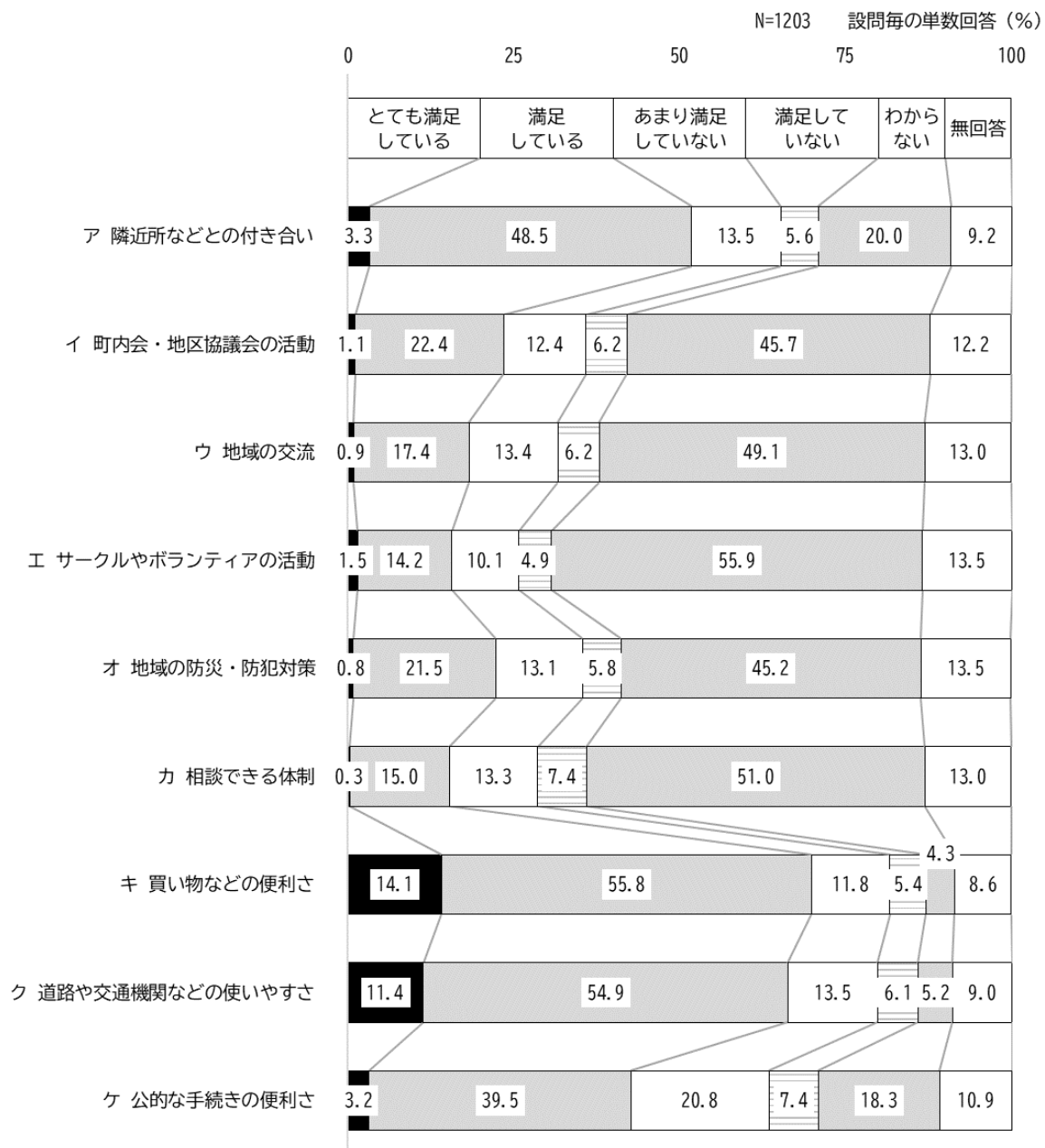


## 8 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 34 お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。（それぞれ1つに○）

- 地域の暮らしやすさの状況について、「とても満足している」と「満足している」を合わせた『満足している』の割合は、『買い物などの便利さ（69.9%）』が最も多く、『道路や交通機関などの使いやすさ（66.3%）』，『隣近所などとの付き合い（51.8%）』が続いている。

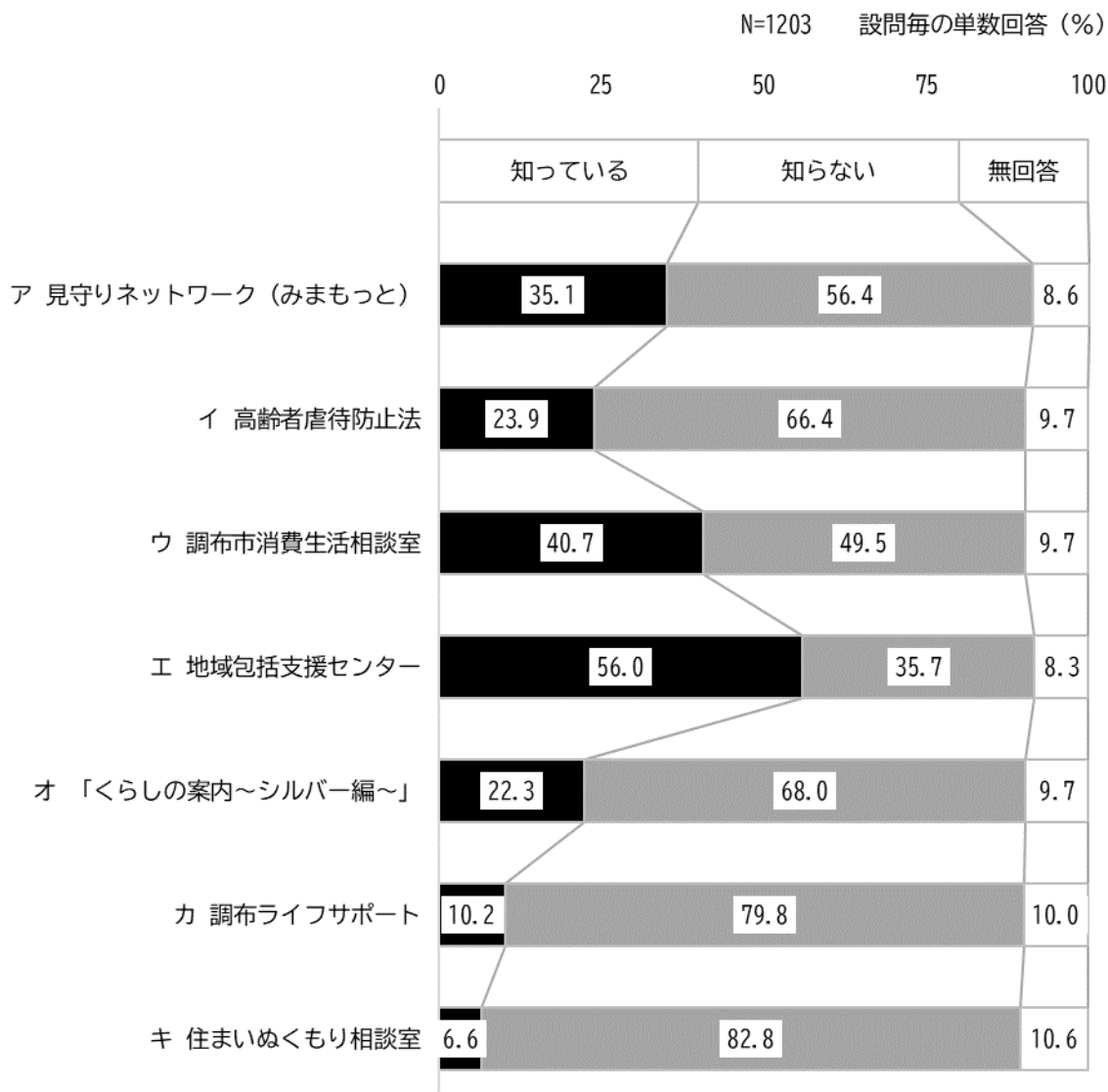
図表\_高齢者/地域の暮らしやすさの状況（全体）



問 35 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などがあります。下記のことをご存知ですか。（それぞれ1つに○）

- 調布市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知度は、『地域包括支援センター（56.0%）』が最も多く、『調布市消費生活相談室（40.7%）』，『見守りネットワーク（みまもっと）（35.1%）』が続いている。

図表\_高齢者／市の高齢者保健福祉施策に関する制度や相談窓口の認知状況（全体）

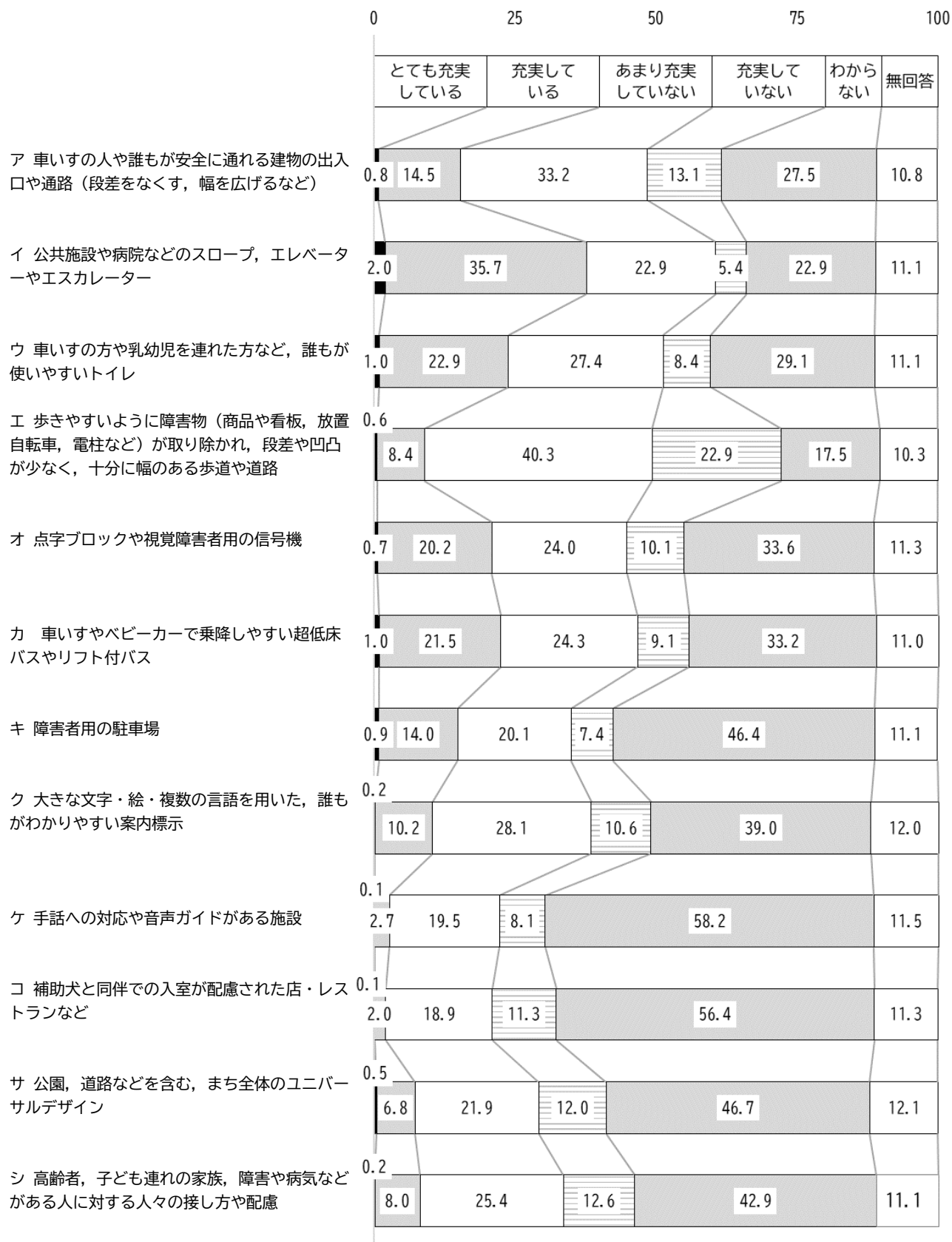


問 36 市内のバリアフリーについて、どのように感じていますか。(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー化の状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、『公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（37.7%）』が最も多く、『車いすの方や乳幼児を連れた方など、誰もが使いやすいトイレ（23.9%）』、『車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス（22.5%）』が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、『歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路（63.2%）』が最も多く、『車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（46.3%）』、『大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内標示（38.7%）』が続いている。

図表\_高齢者／市内のバリアフリー化の状況（全体）

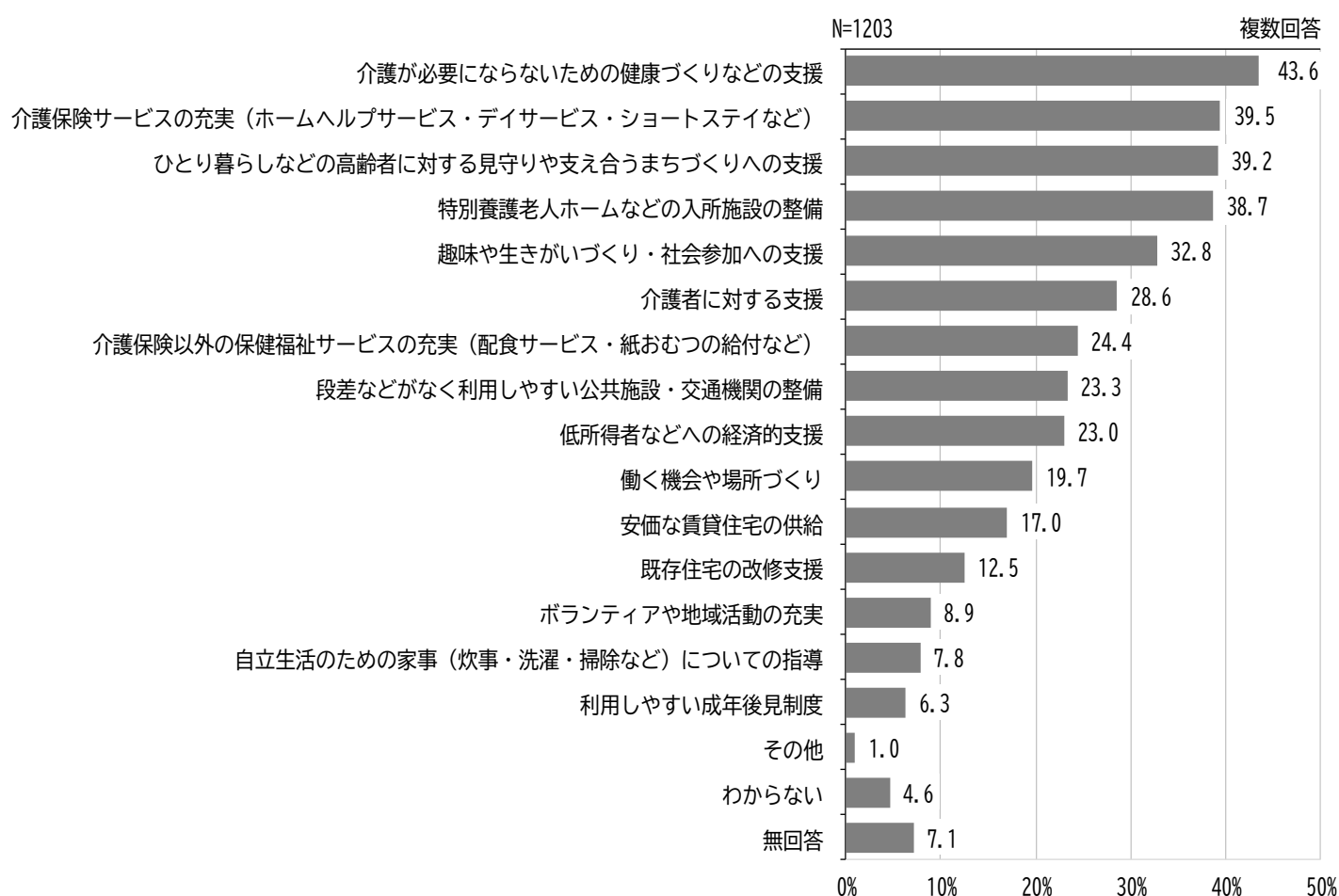
N=1203 設問毎の単数回答（％）



問 37 調布市の高齢者保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（5 つまで○）

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組は、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援（43.6%）」が最も多く、「介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）（39.5%）」、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援（39.2%）」が続いている。

図表\_高齢者/市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組（全体）



【回答者属性分析】

- 市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組の割合を性・年代別にみると、男性は、65～74歳で「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」、75～84歳、85歳以上で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多くなっている。女性は、65～74歳で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が同率の数値となっている。75～84歳、85歳以上で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多くなっている。
- 福祉圏域別にみると、上ノ原・柏野小学校地域で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」が最も多く、第三・石原・飛田給小学校地域で「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が同率の数値となっている。それ以外の地域で「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が最も多くなっている。

図表\_高齢者／市の高齢者保健福祉施策（サービス）において重要な取組（性・年代別、福祉圏域別）（％）

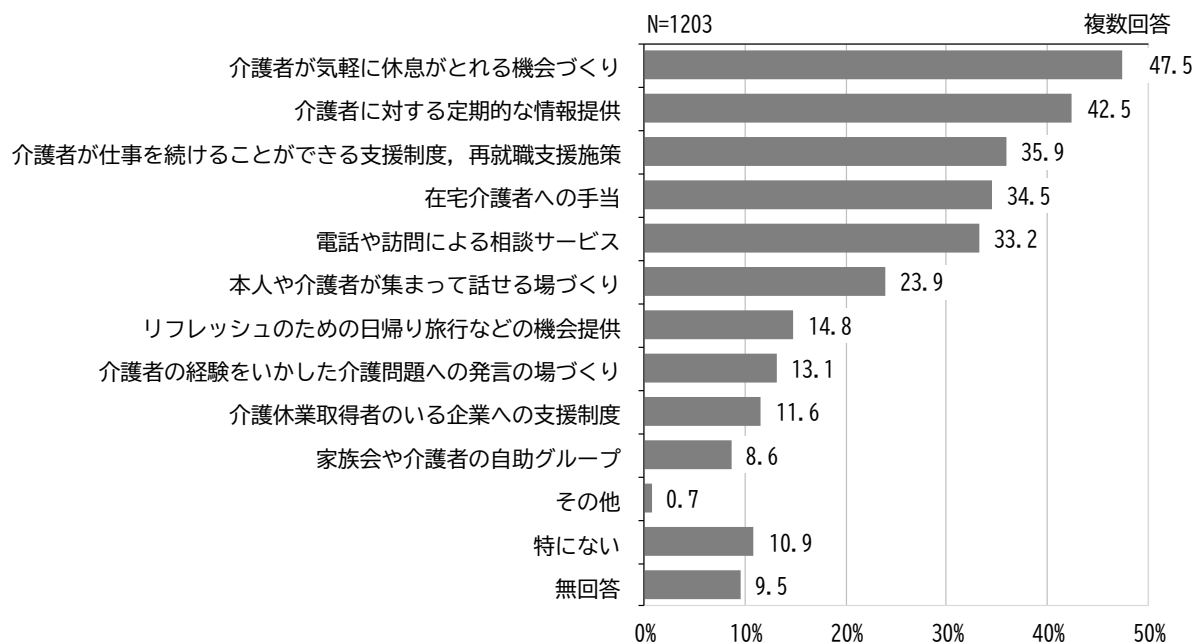
		各項目1位に網掛	趣味や生きがいづくり・社会参加への支援	働く機会や場所づくり	介護が必要にならないための健康づくりなどの支援	自立生活のための家事（炊事・洗濯・掃除など）についての指導	介護保険サービスの充実（ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど）	食サービス・紙おむつの給付など	介護保険以外の保健福祉サービスの充実（配	ボランティアや地域活動の充実	支え合うまちづくりへの支援	ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや	低所得者などへの経済的支援	既存住宅の改修支援	安価な賃貸住宅の供給	段差などがなく利用しやすい公共施設・交通	特別養護老人ホームなどの入所施設の整備	利用しやすい成年後見制度	介護者に対する支援	その他	わからない	無回答
全 体		(N=1203)	32.8	19.7	43.6	7.8	39.5	24.4	8.9	39.2	23.0	12.5	17.0	23.3	38.7	6.3	28.6	1.0	4.6	7.1		
性・年代別	男性	65～74歳	(n=248)	36.3	32.7	37.5	9.3	36.3	19.0	12.9	33.1	27.0	12.5	22.6	21.4	39.5	6.0	26.6	2.0	6.0	3.6	
		75～84歳	(n=177)	36.2	19.8	43.5	10.7	40.1	20.9	9.0	42.9	21.5	13.6	14.1	18.1	32.2	5.1	30.5	0.0	6.2	7.3	
		85歳以上	(n=76)	23.7	10.5	50.0	9.2	43.4	26.3	10.5	31.6	18.4	13.2	5.3	15.8	43.4	5.3	36.8	1.3	6.6	7.9	
	女性	65～74歳	(n=277)	36.1	26.4	41.9	8.3	43.3	28.2	9.4	43.7	23.5	14.1	22.7	26.4	43.7	8.3	30.7	0.0	1.4	4.3	
		75～84歳	(n=273)	32.6	10.3	47.6	5.9	37.4	26.7	5.9	41.8	23.8	10.3	14.3	25.3	40.7	5.9	27.5	0.4	4.0	9.9	
85歳以上		(n=115)	21.7	6.1	51.3	2.6	41.7	25.2	5.2	41.7	17.4	12.2	8.7	31.3	33.9	5.2	26.1	4.3	4.3	11.3		
福祉圏域別（小学校区）	緑ヶ丘・滝坂	(n=147)	36.1	16.3	46.9	10.9	38.8	24.5	12.9	45.6	20.4	10.2	19.0	28.6	36.1	6.8	32.0	1.4	5.4	4.1		
	若葉・調和	(n=140)	28.6	20.7	45.0	6.4	42.1	28.6	6.4	37.1	25.0	15.7	23.6	24.3	37.9	2.9	30.0	0.7	0.7	9.3		
	上ノ原・柏野	(n=117)	31.6	23.9	40.2	8.5	32.5	22.2	10.3	45.3	20.5	11.1	14.5	21.4	43.6	2.6	29.9	0.9	4.3	3.4		
	北ノ台・深大寺	(n=102)	33.3	20.6	39.2	6.9	38.2	20.6	11.8	38.2	19.6	12.7	16.7	19.6	35.3	7.8	26.5	0.0	5.9	10.8		
	第二・八雲台・国領	(n=175)	37.1	23.4	45.1	9.7	37.7	21.1	9.7	38.3	26.9	9.7	19.4	20.6	39.4	5.7	25.1	1.1	8.6	8.0		
	染地・杉森・布田	(n=137)	34.3	20.4	46.7	4.4	42.3	23.4	10.2	29.9	19.0	14.6	19.0	28.5	39.4	8.0	27.7	2.2	3.6	4.4		
	第一・富士見台・多摩川	(n=174)	33.3	19.0	44.3	10.9	40.8	24.7	8.0	36.8	22.4	10.3	10.3	21.8	36.2	8.6	28.7	0.0	4.6	10.3		
	第三・石原・飛田給	(n=182)	30.8	17.0	43.4	5.5	42.3	26.9	4.9	44.5	26.9	17.0	13.2	22.5	44.5	6.6	30.8	1.6	2.2	5.5		



問 38 介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。(いくつかでも○)

- 介護者への支援策は、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり (47.5%)」が最も多く、「介護者に対する定期的な情報提供 (42.5%)」, 「介護者が仕事を続けることができる支援制度, 再就職支援施策 (35.9%)」が続いている。

図表\_高齢者／介護者への支援策 (全体)



問 39 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが暮らしやすいまちづくりの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、615 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表\_高齢者／自由意見

項目	意見区分	意見数
ア 地域活動，市民同士の支え合い	①自治会活動の活性化 ②支え合い，ボランティア ③地域活動の情報 ④近所のつながり ⑤声かけ	163
イ 相談，サービス	①市のサービス ②サービス等の情報提供 ③相談体制の充実 ④介護・医療のサービス充実	137
ウ 安全・安心	①交通安全 ②バリアフリー化 ③防災の強化 ④防犯の強化 ⑤見守りの強化	148
エ 上記以外	①市の施策 ②交通の利便性	167
合計		615

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

ア 地域活動，市民同士の支え合い

①自治会活動の活性化

- 自治会活動により多くの人に参加出来るようになると良いと思います。又、地域のお祭り等を通じて協力し合う関係づくりが出来ると良いです。（男性，70～74 歳）
- 自治会の活動等の補助（金）等。（男性，70～74 歳）
- 当地は、自治会が無くなりました。特に高齢者は地域社会の情報が無く困ります。呼びかけて作りたいと思うほどですが、作り方の指導などして欲しい。（男性，70～74 歳）

## ② 支え合い，ボランティア

- 市民や地域活動団体(町会，自治会など)が支え合って暮らしやすい町づくりを行う為には行政と地域の専門機関(社協など)との役割分担を踏まえた連携の強化が必要。こうする事で手助けを必要とする人や手助けを行う人が安心して支え合える環境が出来るのではないか。(女性，65～69歳)
- 多くの地域活動・ボランティア活動が行われているようですが，自分のまわりではまったく知らない。近所で身内の困り事を悩んでいる1人暮らしのご婦人がいるが，役所に行って話しを聞いてもらったらと勧めても行けないようです。身近に専門の知識を持った人たちが存在していれば悩みが喜びに変えられるのに。支援活動等が広がるのを望みます。(男性，65～69歳)

## ③ 地域活動の情報

- SNSにより，自治会活動や，情報提供が定期的にあると良いと思う。(男性，75～79歳)
- サークル活動等の情報提供。(男性，70～74歳)
- 広報活動を更に密に。(男性，85歳以上)

## ④ 近所のつながり

- もっと気軽な相互助け合いの場所。(男性，75～79歳)
- 市民同士が出会える場をつくる。(例)体操教室など。(女性，80～84歳)
- 地域センターをもっと増やし，気軽にしゃべり合える場所を作ってほしい。(女性，65～69歳)

## ⑤ 声かけ

- 高齢者社会になっていくので，知らない人どうしても「おはよう」「こんにちは」などの声かけ挨拶から始めたらよいと思う。(男性，70～74歳)
- 学校で小・中学生には挨拶の大切さを教えてほしい。又，大人も挨拶の模範になりましょう。(男性，75～79歳)
- 隣近所の方々とは，日頃より仲良くお話しできる様にしておく。(女性，85歳以上)

## イ 相談，サービス

### ① 市のサービス

- たどり着くまでのフローをチャートで案内する。(男性，70～74歳)
- 市民が困った時に速やかにサービスに繋げる行政の横の繋がりが大切。(男性，65～69歳)

### ② サービス等の情報提供

- 今の市報には非常に多くの情報が詰め込まれています。情報には読者が各アイテムに寄って行くのが標準となっていますが高齢者がこの情報は私に必要として検索するのは結構難しいです。市報の中に高齢者コーナーを作って高齢者情

報を纏めて掲載できませんでしょうか。又、防犯・防災コーナーや自治会・地区協議会コーナーを作って各団体の活動や力を入れている事、会員に協力して欲しい事等を記載するようにする。現状なんとなくこのような団体の活動が軽視されていくのは問題と考えています。（男性，80～84歳）

- SNSの利用は高齢者にとってあまり容易ではない。相談の窓口やサービスを提供して頂く組織を1つのパンフレットにまとめ、それを配布した方が良いと思う。（男性，65～69歳）
- 市の福祉サービスの状況を市報などでもっと詳しく情報提供してほしい。（女性，65～69歳）

### ③相談体制の充実

- 住む所の近くに相談する場所があると心強いと思う。（女性，80～84歳）
- 気軽に相談できる場所を市役所などに作る。（既にあるのかもしれませんが、出入りしやすい雰囲気にしてほしい。）（女性，80～84歳）
- 相談する場を知らない。（女性，85歳以上）

### ④介護・医療のサービス充実

- 医療相談の充実。（男性，65～69歳）
- 親の介護をしていた頃、市報で「介護者の集まり」をしり出席しました。悩みを保健士さんに訊いて頂き心が晴れた事が有りました、相談が出来る所は必要です。（女性，70～74歳）

## ウ 安全・安心

### ①交通安全

- 歩道を安心して歩ける町にして欲しいと思います。自転車のマナーが余りにも悪く、学校、自宅での教育、社会的な法整備が早急に必要と思います。特に無灯火の自転車に対して望みます。（女性，70～74歳）
- 交通ルール取締まり強化。（男性，65～69歳）
- 自転車の交通ルールの徹底を。逆走やスピードなど。（女性，85歳以上）

### ②バリアフリー化

- 通院等で車イスを使用すると歩行者や車、自転車等が非常に怖い事が有る。（女性，70～74歳）
- 道路拡張を取り組んでいることに、感謝とともに関心を持っていますが、混雑時片側歩道では、安心して通行するには、かなり神経を使っています。（不明，80～84歳）
- 車イスを使っていたのですが、段差の所が少し苦労しました。でも、少なくとも助かりました。（女性，75～79歳）

### ③防災の強化

- 災害発生時にどの様に行動すべきかについて町会や自治会などを中心とした地域の人々と行政，学校，消防，警察等が合同での訓練を実施する事が必要だと思う。それぞれの相互理解が促進され安心して暮らせる町づくりに繋がると思う。（女性，65～69歳）

### ④防犯の強化

- 高齢者を狙った犯罪の防止。道路交通上，高齢者が動きやすい対策。（男性，65～69歳）
- 警察がもっと身近になる関係づくり。屋外の監視カメラの充実。（男性，75～79歳）
- 1.地域の防犯システム(防カメや通報等)の充実。2.警察以外の民間警備会社等による地域巡回。（男性，65～69歳）

### ⑤見守りの強化

- 公的な見守りを定期的に行う。（女性，75～79歳）
- サギなどの危険な目に合わぬ様な周りの見守りと情報を多くする。（女性，70～74歳）
- 見守り活動を進めていく。（女性，65～69歳）

## エ 上記以外

### ①市の施策

- 災害時に市役所は自治会を通じて物資などを配布すると聞いたことがあります。自治会に入会しない人達も増えてきて今の自治会の在り方を再考する必要があるのではないのでしょうか。（女性，65～69歳）
- 福祉などに対する市の取り組みやサービスなど，どんな事をしているのかを広くわかりやすく市民に知らせて欲しいです。（女性，70～74歳）
- 訪問介護，訪問医療，訪問看護，これらがもっと増えるとよいと思います。（女性，75～79歳）

### ②交通の利便性

- バスの使用が多くなりましたが，停留所が遠く感じられる年齢です。（女性，75～79歳）